

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部
審査意見への対応を記載した書類
(7月)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

【全体計画審査意見1、2、3の回答について】

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するとしている。養成する人材像等は、別途認可申請している専門職大学の内容と多くの部分で共通しているが、修業年限2年という限られた時間の中で養成することができるのか不明確である。また、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。さらに、ディプロマ・ポリシーで示されている5つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像が修業年限2年で養成できるのか明確にするとともに、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするとともに、必要に応じて修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・1

【全体計画審査意見1の回答について】

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職短期大学の双方に用いられており、専門職短期大学として養成する人材像が不明確である。専門職短期大学における「農林業生産者」と「農林業者」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を確認すること。(是正事項)・・・・・・・・・・17

【全体計画審査意見1、2の回答について】

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに科目群の編成方針を加えて整合性を明らかにすること。(是正事項)・・・・・・・・・・33

【教育課程等】

【全体計画審査意見4、6、7の回答について】

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要となる資質・能力の修得が不十分なものとなる懸念があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポ

リシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

【全体計画審査意見 12 (1) の回答について】

5. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

【全体計画審査意見 12 (2) の回答について】

6. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習は実務に従事するが、例えば、「生産管理 林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許や免許などの有無が不明確であるため、実習の履修要件である基本的な技術や必要となる知識等を説明しつつ、実習の具体的な内容を明らかにすること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

【教員組織等】

7. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職短期大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

【全体計画審査意見 19 の回答について】

8. <書類不備>

申請書類に誤字や言葉の不一致があるため、再度確認を行うこと。

(改善事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92

【審査意見以外の対応】

<施設整備スケジュールの変更について>

部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材」を養成している。養成する人材像等は、別途認可申請している専門職大学の内容と多くの部分で共通しているが、修業年限2年という限られた時間の中で養成することができるのか不明確である。また、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。さらに、ディプロマ・ポリシーで示されている5つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像が修業年限2年で養成できるのか明確にするとともに、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするともに、必要に応じて修正すること。

(対応)

農林業は「栽培」、「林業」、「畜産」という3分野に分かれており、本学として養成する人材は、これらの各分野の生産現場で活躍する人材であることを説明し、このことが明確にするとともに、4年制専門職大学との設置目的の違いも踏まえて養成する人材像等を修正の上、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明する。

また、カリキュラム・ポリシーを修正の上、ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性について説明するとともに、教育課程を修正する(別添資料1 カリキュラム・マップ)

(詳細説明)

1 養成する人材像、教育目標及びディプロマ・ポリシーの修正

農林業は、一般的に、生産する対象により、栽培、林業、畜産という3つの分野に区分されるが、本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、いずれの分野においても多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されており、この3つの分野が本県農林業の基盤となっている。

このため、本県農林業の発展に向けては、栽培、林業、畜産というそれぞれの分野において専門性を発揮し、各分野を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。本学は、栽培、林業、畜産のいずれかの分野の生産現場においてリーダーとなり、当該分野の生産を牽引していくとともに、自らが農林業を営む農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材を専門職短期大学として養成するものである。

一方で、栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、生産物の付加価値向上を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分について、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は、各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。

このため、学生は1年次後半に本人の希望により栽培、林業、畜産のいずれかのコースを選択するが、各コースに分かれた後も、各分野に関連・共通する部分は共通で学ぶこととしており、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程を編成することにより、専門分野の生産における実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図り創造性を発揮できる人材を養成したいと考えている。

本学は、このような人材養成を行うために1学科とし、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを単一としているものである。

また、本学は専門職短期大学として設置するものであり、4年制の専門職大学とは人材養成の使命が異なっている。学校教育法において、専門職大学の目的が「専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること」とされているのに対し、専門職短期大学の目的は「専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を育成すること」とされており、本学においては、こうした専門職短期大学の設置目的を踏まえながら、専門分野である生産に関する知識や技術の修得に主眼を置いた教育を行うものである。

これらのことが明確になるよう、養成する人材像等を以下のとおり修正する。

<修正後の養成する人材像等（下線の部分が修正箇所）>

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育ていくことができる人材

【教育目標】

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。

栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が

県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。

農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。

特に、近年の農林業における生産技術の高度化に対応していくためには、生産理論に関する確かな知識とそれに裏付けられた技術や、先端技術を生産現場へ導入する能力などによる実践力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなることができる人材の養成が求められている。

さらに、消費者の意識の向上などに対応していくため、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図ることができる創造力も併せて求められている。

また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する基礎的な知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。

<本学として養成する人材像>

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育んでいくことができる人材

【ディプロマ・ポリシー】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育んでいくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

- (1) 社会人に求められる知識を有するとともに、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を有している。
- (2) 農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培、林業、畜産の各分野における生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。
- (3) 農山村の地域社会を支える生産者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識を有している。
- (4) 農山村の地域資源や生産する農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を活用し、栽培、林業、畜産の各分野において生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。
- (5) 修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。

2 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性の説明

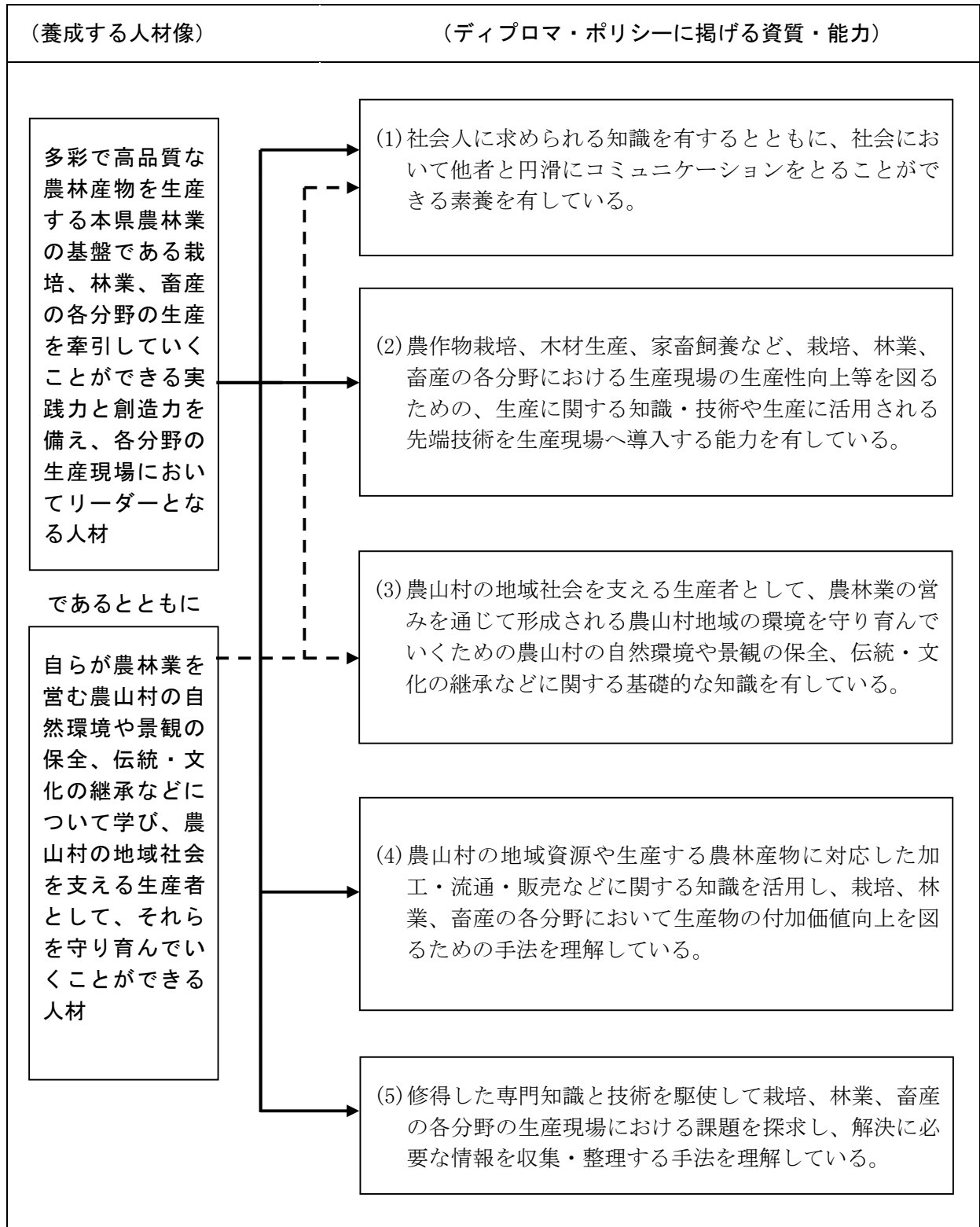
本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材」であるとともに、「農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

「栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の生産を牽引していくことができる実践力とは、生産理論に関する確かな知識とそれに裏付けられた技術力や、先端技術を生産現場へ導入する能力、生産現場の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの(2)、(5)に主に関連する。

また、創造力とは、社会人として必要な知識を基盤に農山村の地域資源や生産物の加工・流通・販売など他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図り創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの(1)、(4)に主に関連する。

「農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養と、農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識であり、ディプロマ・ポリシーの(1)、(3)に主に関連する。(全体的な対応関係は次ページの図のとおり。)

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



3 カリキュラム・ポリシーの修正

ディプロマ・ポリシーとの整合性を明確にするため、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

<修正後のカリキュラム・ポリシー>

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなるために必要な知識や、農山村の地域社会を生産者として支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、1年次後半から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、1年次後半以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する基礎的な知識を修得させる。
- (4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

4 ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性の説明

上記のカリキュラム・ポリシーのもとに、本学においては、以下のとおり教育課程を編成することとしており、ディプロマ・ポリシーに対応した教育課程としている。

- (1)基礎科目として「一般教養」の科目群を置き、1年次に、社会人に求められる実用的な知識や語学などのコミュニケーションスキルを学ぶ科目を配置し、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの(1)に主に関連している。
- (2)職業専門科目として「農林業基礎」、「生産理論」、「生産技術」の科目群を置き、農林業全般について基礎的な事項を学ぶ農林業基礎科目を、1年次を中心として配置する。また、生産理論と生産技術については、1年次前半に共通的な理論や技術を学ぶ科目を配置し、1年次後半以降は栽培、林業、畜産のコースごとに作目や畜種に応じた理論や技術を学ぶ科目を配置する。必要な知識・技術を身に付けた上で、各分野の生産現場において長期の臨地実務実習を行うことにより、生産現場における実践力を養成する。これらの科目においては、生産に活用される先端技術や、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した生産手法などを併せて学び、農林業に関する幅広い知識を身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの(2)、(3)に主に関連している。

- (3)展開科目として「農山村の伝統・文化及び地域社会」、「加工・流通・販売等」の科目群を置き、農山村の伝統・文化の継承や地域社会に関する知識、農山村の地域資源や生産物の加工・流通・販売の知識などを活用して生産物の付加価値向上を図るための手法などを学ぶ科目を1年次後半から配置する。生産物の加工・流通・販売や各分野の経営については、栽培、林業、畜産のコースごとに学び、それぞれの分野において生産物の付加価値向上を図るための創造力を養成することとしており、ディプロマ・ポリシーの(3)、(4)に主に関連している。
- (4)総合科目として「プロジェクト研究」の科目を置き、2年間の学びの集大成として、2年次にプロジェクト研究に取り組み、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題の解決に向けて情報を収集・整理する手法を身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの(5)に主に関連している。

なお、教育課程の見直しを行ったところ、生産理論の科目において、林業コースに植物全般にわたる基礎科目がなかったため、「植物遺伝育種学概論」を林業コースの必修科目として配置する。

また、加工・流通・販売等の科目において、栽培コース及び畜産コースの「流通加工論」が選択科目となっており、加工・流通について必要な資質・能力を身に付けないおそれがあるため、栽培コース及び畜産コースの必修科目に改める（林業コースの学生は、「木材利用・流通論」、「木材加工演習」で加工・流通について学修する）。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(7 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学は栽培、林業、畜産の各分野における<u>生産現場のリーダー</u>を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の養成部においても、<u>生産現場のリーダー</u>の養成を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校</u>においては、教育課程や、(略)</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学は農林業生産者を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の養成部においても、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や(略)</p> |
| <p>(7 ページ)</p> <p>教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>栽培、林業、畜産の各分野における生産現場のリーダー</u>として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成(略)</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成(略)</p> |
| <p>(7 ページ)</p> <p>本県農林業の持続的発展のため、本学には、将来的に<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>や地域社会において新しい価値を創造する素養を持った、県内経済の発展と地域の活性化に貢献する自立した<u>農林業生産者</u>の輩出が(略)</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>本県農林業の持続的発展のため、本学には、将来的に<u>農林業経営</u>や地域社会において新しい価値を創造する素養を持った、県内経済の発展と地域の活性化に貢献する自立した<u>農林業者</u>の輩出が(略)</p> |
| <p>(8 ページ)</p> <p>しかし、今後、AI や IoT などの先端技術の農林業分野への活用により、作業の自動化や技術情報の集約化が進む中で、<u>生産現場</u>の働き方が大きく変わることが予想される。今後の現場農林業生産者は単なる労働者ではなく、確かな生産</p> | <p>(8 ページ)</p> <p>しかし、今後、AI や IoT などの先端技術の農林業分野への活用により、作業の自動化や技術情報の集約化が進む中で、<u>農林業現場</u>の働き方が大きく変わることが予想される。今後の現場農林業者は単なる労働者ではなく、確かな生産技術を身につ</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>技術を身につけた上で、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産のプロフェッショナルとして</u></p> | <p>けた上で、<u>農林業生産のプロフェッショナルとして</u></p> |
| <p>(9 ページ) <u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、</u></p> | <p>(9 ページ) <u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、</u></p> |
| <p>(9 ページ) <u>①栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成 (略)発展の土台であるが</u></p> | <p>(9 ページ) <u>①農林業生産現場のリーダーであるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成 (略)発展の基盤であるが</u></p> |
| <p>(9 ページ) このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、</u></p> | <p>(9 ページ) このことから、本学においては、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、</u></p> |
| <p>(11 ページ) <u>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程</u> <u>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、他分野の関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、生産物の付加価値向上を図るための創造力に結びつく効果も期待できる。</u> <u>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していく人材を養成するに当たり、分野ごとの縦割り教育ではなく、生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内</u></p> | <p>(11 ページ) (追加)</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>容が異なる部分は、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別に学びながら、他分野の関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。</p> <p>1年次後半から自らのコースの生産などに関する専門的な知識・技術を学びつつ、2年間を通じて他分野の関連・共通部分を分野横断的に学ぶことにより、専門分野の生産における実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図り創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</p> | |
| <p>(12 ページ)</p> <p>⑤栽培、林業、畜産の各分野の経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内の栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>(11 ページ)</p> <p>④農林業事業体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内農林業事業体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |
| <p>(12 ページ)</p> <p>(略)プロジェクト研究を総合科目として配置し、自らが<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産</u>に携わった際の課題へ</p> | <p>(11 ページ)</p> <p>(略) プロジェクト研究を総合科目として配置し、自らが<u>農林業生産</u>に携わった際の課題へ</p> |
| <p>(12 ページ)</p> <p>本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに農山村の地域社会を<u>生産者として支えていく人材</u>」を養成する</p> | <p>(12 ページ)</p> <p>本学は、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに農山村の地域社会を<u>農林業者として支えていく人材</u>」を養成する</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(14 ページ)</p> <p>本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに(略) 農山村の地域社会を生産者として(略)</u></p> | <p>(13 ページ)</p> <p>本学は、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに(略)農山村の地域社会をリーダーとして</u></p> |
| <p>(15 ページ)</p> <p>これに対し本学では、生産現場のリーダーとして<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、2年という限られた修業年数で十分な人材養成を行うため、生産に関する知識や技術の修得に主眼を置いた教育を行うこととしている。</u></p> | <p>(14 ページ)</p> <p>これに対し本学では、生産現場のリーダーとして<u>生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、2年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。</u></p> |
| <p>(15 ページ)</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営における</u></p> | <p>(15 ページ)</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営における</u></p> |
| <p>(16 ページ)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための創造力</u></p> | <p>(15 ページ)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</u></p> |
| <p>(16 ページ)</p> <p>これに対し、本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場を担う実践力を身につける短期大学</u>であり、将来農林業を志す学生に、<u>実習・演習を重視した教育を行うことで、生産現場のプロフェッショナルを養成することを目的としている。</u></p> | <p>(15 ページ)</p> <p>これに対し、本学は<u>農林業を営む実践力を身につける短期大学</u>であり、将来農林業を志す学生に、<u>実習・演習を重視した教育を行うことで、生産現場のプロフェッショナルを養成することを目的としている。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(18 ページ)</p> <p>(略)専門的農林業人の養成と、社会人として必要な教養教育に重点を置き、<u>農林業生産者として成長するための拠り所</u></p> | <p>(16 ページ)</p> <p>(略)専門的農林業人の養成と、社会人として必要な教養教育に重点を置き、<u>農林業者として成長するための拠り所</u></p> |
| <p>(19 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産に関する知識や技術のレベルアップを図るとともに、</u></p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、<u>生産に関する知識や技術のレベルアップを図るとともに、</u></p> |
| <p>(20 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p><u>農林業の本質は生命を育むことであり、農林産物の生産知識や技術は、農林業者にとって必要不可欠なものである。同時に、AI や IoT の活用など生産技術の高度化への対応や、GAP（農業生産工程管理）の取組、加工・流通・販売の知識を活用した付加価値を向上させる取組などが近年の現場では求められている。</u></p> <p><u>また、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支えることが農林業者には求められている。</u></p> <p><u>こうした観点から、短期大学部生産科学科では確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となるとともに、先端技術の応用力や、生産物の付加価値を向上させるための加工・流通・販売に関する知識などに加え、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を身に付けた、「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成する。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>特に、近年の農林業における生産技術の高度化に対応していくためには、生産理論に関する確かな知識とそれに裏付けられた技術や、先端技術を生産現場へ導入する能力などによる実践力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなることができる人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、消費者の意識の向上などに対応していくため、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図ることができる創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する基礎的な知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> | |
| <p>(21 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林</p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3) の教育目標を実現するために</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p><u>業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> | <p><u>設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業生産者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト実習を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> |
| <p>① <u>社会人に求められる知識を有するとともに、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を有している。</u></p> | <p>① <u>社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> |
| <p>② <u>農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培、林業、畜産の各分野における生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。</u></p> | <p>② <u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。</u></p> |
| <p>③ <u>農山村の地域社会を支える生産者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識を有している。</u></p> | <p>③ <u>農山村の地域社会を支える農林業者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> |
| <p>④ <u>農山村の地域資源や生産する農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を活用し、栽培、林業、畜産の各分野において生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> | <p>④ <u>農山村の地域資源や加工・流通・販売などに関する知識を活用し、生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> |
| <p>⑤ <u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。</u></p> | <p>⑤ <u>修得した専門知識と技術を駆使して農林業生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(22 ページ)</p> <p>・栽培、林業、畜産の各分野の後継者</p> <p>・栽培、林業、畜産の各分野の経営体における生産現場のリーダー</p> <p>・栽培、林業、畜産の各分野の関連企業（食品・種苗等）への就職 など</p> | <p>(19 ページ)</p> <p>・農林業後継者</p> <p>・農林業経営体における生産現場のリーダー</p> <p>・農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 など</p> |
| <p>(27 ページ)</p> <p>トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、栽培、林業、畜産の各分野の経営体で生産技術を学修する「企業実習」</p> | <p>(25 ページ)</p> <p>トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</p> |
| <p>(28 ページ)</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える生産者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や栽培、林業、畜産の各分野の加工・流通・販売などに</p> | <p>(25 ページ)</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える農林業者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や加工・流通・販売などに</p> |
| <p>(32 ページ)</p> <p>学内の圃場や県研究施設の圃場で行う実習と、栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営体で行う約2ヶ月間にわたる臨地実務実習を実施する。</p> | <p>(29 ページ)</p> <p>学内の圃場や県研究施設の圃場で行う実習と、農林業経営体で行う約2ヶ月間にわたる臨地実務実習を実施する。</p> |
| <p>(33 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>(30 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、県内農林業事業体において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |
| <p>(52 ページ)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場で活用できる実践的生産技術</p> | <p>(48 ページ)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、生産現場で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とす</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>を習得することを目標とする。</p> | <p>る。</p> |
| <p>(54 ページ)</p> <p>①臨地実務実習の流れ</p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育てていくことができる人材</u>」である。</p> <p>これを踏まえたディプロマ・ポリシー「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力</u>」を達成するため、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」(2年次必修 10 単位)</u>を配置し、「<u>臨地実務実習要綱(案)</u>」を基本として実施する。</p> | <p>(50 ページ)</p> <p>①臨地実務実習の流れ</p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材</u>」である。</p> <p>これを踏まえたディプロマポリシー「<u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力</u>」を達成するため、<u>農林業経営体での生産技術を学ぶ「企業実習」(2年次 必修 10 単位)</u>を配置し、「<u>臨地実務実習要綱</u>」を基本として実施する。</p> |

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職短期大学の双方に用いられており、専門職短期大学として養成する人材像が不明確である。専門職短期大学における「農林業生産者」と「農林業者」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を確認すること。

(対応)

専門職短期大学として養成する人材像を明確にするため、養成する人材像を修正するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、既設の農林大学校と新設予定の専門職短期大学の養成する人材像の違いについての説明箇所を修正する。

併せて、専門職短期大学における「農林業生産者」と「農林業者」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、「農林業者」と記載した箇所の一部を修正する。

(詳細説明)

1 既設の農林大学校と専門職短期大学の養成する人材像の違い

既設の農林大学校（養成部）と専門職短期大学における養成する人材像は次のとおりである。

- ・農林大学校 …… 「農林業生産現場のリーダー」
- ・専門職短期大学 …… 「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育てていくことができる人材」

専門職短期大学として養成する人材像のうち、「農林業生産現場のリーダー」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、生産技術の高度化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の育成ができていない。

このため、専門職短期大学においては、先端技術の知識や技術を学ぶなど生産技術の高度化に対応するとともに、消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、生産現場のリーダーとなることができる人材の養成を目指している。

また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職短期大学においては、農林業の持続的な発展には土台となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職短期大学として養成する人材像には「農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。

2 専門職短期大学における「農林業生産者」と「農林業者」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

(1) 専門職短期大学における「農林業生産者」と「農林業者」の位置付け

「農林業者」とは、農林業に従事する者を幅広く指す言葉であり、経営部門と生産部門の従事者を含んでいるが、「農林業生産者」とは、このうち生産部門に従事している者を指す言葉である。

このため、本学においては、経営部門と生産部門の従事者全体を「農林業者」、生産部門の従事者を「農林業生産者」と位置付けており、「設置の趣旨等を記載した書類」において「農林業者」と記載している箇所のうち、生産部門の従事者を指している部分を「農林業生産者」に修正する。

(2) 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

これまで、本学として養成する人材像を「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材」としていたが、本学において養成するのは農林業生産者であることから、後半の「農林業者」の部分を「生産者」に修正する。

また、ディプロマ・ポリシーにおいて、「農林業生産者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付けた者に学位を授与する」こととしていたが、「生産現場のリーダー」という養成する人材像と整合性がとれていなかったため、ディプロマ・ポリシーのうち「農林業生産者に求められる」としていた部分を「本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育てていくことができる人材」に修正する。

本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材」であるとともに、「農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

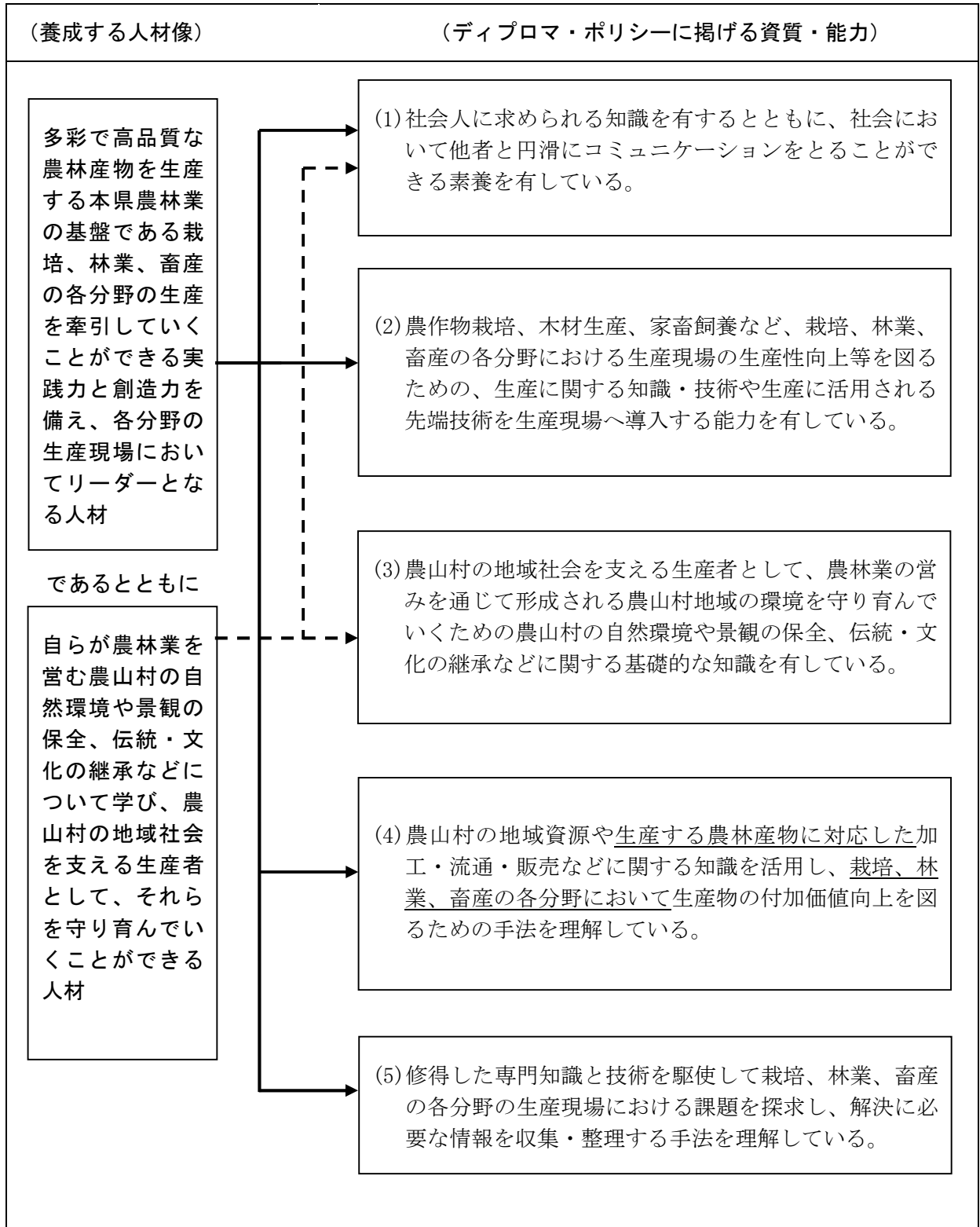
「栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の生産を牽引していくことができる実践力とは、生産理論に関する確かな知識とそれに裏付けられた技術力や、先端技術を生産現場へ導入する能力、生産現場の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの(2)、(5)に主に関連する。

また、創造力とは、社会人として必要な知識を基盤に農山村の地域資源や生産物の加工・流通・販売など他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向

上を図り創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの（１）、（４）に主に関連する。

「農山村の地域社会を生産者として支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養と、農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識であり、ディプロマ・ポリシーの（１）、（３）に主に関連する。（全体的な対応関係は次ページの図のとおり。）

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類)

「農林業者」と記載した箇所の一部を修正表

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野における生産現場のリーダー</u>を養成するための教育機関であり、(略)</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>本学は農林業生産者を養成するための教育機関であり (略)</p> |
| <p>(7 ページ)</p> <p>本学の設置は、産業としての農林業の競争力を高めていくとともに、地域の活性化にも繋がっていくものであり、静岡県の新しい<u>農林業生産者養成</u>の中心となるこの専門職短期大学の設置は、本県農林業政策における大きな</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>本学の設置は、産業としての農林業の競争力を高めていくとともに、地域の活性化にも繋がっていくものであり、静岡県の新しい<u>農林業者養成</u>の中心となるこの専門職短期大学の設置は、本県農林業政策における大きな</p> |
| <p>(8 ページ)</p> <p>静岡県立農林大学校は、これまで確かな生産技術を持った現場<u>農林業生産者</u>を数多く輩出し、(略)</p> <p>後の現場<u>農林業生産者</u>は単なる労働者ではなく、確かな生産技術を身につけた上で、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産のプロフェッショナル</u>として先端技術等を現場に導入し、労働生産性を高め、持続的に安全安心な作物を育てる力や、<u>農林業生産者</u>が果たすべき役割を理解した上で社会の動きに柔軟に対応し、現場で自らの考えを表現する力が求められる。</p> | <p>(8 ページ)</p> <p>静岡県立農林大学校は、これまで確かな生産技術を持った現場<u>農林業者</u>を数多く輩出し、(略)</p> <p>今後の現場<u>農林業者</u>は単なる労働者ではなく、確かな生産技術を身につけた上で、<u>農林業生産のプロフェッショナル</u>として先端技術等を現場に導入し、労働生産性を高め、持続的に安全安心な作物を育てる力や、<u>農林業者</u>が果たすべき役割を理解した上で社会の動きに柔軟に対応し、現場で自らの考えを表現する力が求められる。</p> |
| <p>(8 ページ)</p> <p>過去には<u>農林業生産者</u>は生産に主眼を置いて農林業に従事してきたが、今日の農林業は生産のみならず、</p> | <p>(8 ページ)</p> <p>過去には<u>農林業者</u>は生産に主眼を置いて農林業に従事してきたが、今日の農林業は生産のみならず</p> |
| <p>(9 ページ)</p> <p>自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業生産者</u>として</p> | <p>(9 ページ)</p> <p>自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として</p> |
| <p>(9 ページ)</p> <p>農山村の地域社会を支える<u>農林業生産者</u>として、それらを守り育んでいく</p> | <p>(9 ページ)</p> <p>農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育んでいく</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(14 ページ)</p> <p>これに対し本学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> | <p>(13 ページ)</p> <p>これに対し本学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> |
| <p>(15 ページ)</p> <p>農山村の地域社会を<u>農林業生産者</u>として支えていくための教育課程としている点などで異なっている。</p> | <p>(13 ページ)</p> <p>農山村の地域社会を<u>農林業者</u>として支えていくための教育課程としている点などで異なっている。</p> |
| <p>(15 ページ)</p> <p>これに対し本学では、農山村の地域社会を支える<u>農林業生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> | <p>(14 ページ)</p> <p>これに対し本学では、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</p> |
| <p>(20 ページ)</p> <p>しかし、これからの生産現場を中心となって支えていく<u>農林業生産者</u>には、単に生産知識や技術を身に付けているだけでなく、IoT や AI(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、<u>栽培、林業、畜産の各分野</u>の生産に関する知識や技術のレベルアップを図るとともに、これからの農林業を取り巻く環境変化に対応できる能力を備えた<u>農林業生産者</u>の養成を図ることとしている。</p> | <p>(18 ページ)</p> <p>しかし、これからの生産現場を中心となって支えていく<u>農林業者</u>には、単に生産知識や技術を身に付けているだけでなく、IoT や AI(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、生産に関する知識や技術のレベルアップを図るとともに、これからの農林業を取り巻く環境変化に対応できる能力を備えた<u>農林業者</u>の養成を図ることとしている。</p> |
| <p>(23 ページ)</p> <p>農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業生産者</u>として、それらを守り育ていく</p> | <p>(20 ページ)</p> <p>農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく</p> |
| <p>(25 ページ)</p> <p>職業専門科目には、農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を育成するための科目や、農山村の地域社会を支</p> | <p>(22 ページ)</p> <p>職業専門科目には、農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を育成するための科目や、農山村の地域社会</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| える <u>農林業生産者</u> として、(略) | を支える <u>農林業者</u> として、(略) |
| (28 ページ) 展開科目は、農山村の地域社会を支える <u>農林業生産者</u> として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、 | (25 ページ) 展開科目は、農山村の地域社会を支える <u>農林業者</u> として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、 |
| (69 ページ) 「キャリアサポートセンター」には、 <u>農林業生産者</u> の実情に詳しく、県農林事務所 | (65 ページ) 「キャリアサポートセンター」には、 <u>農林業者</u> の実情に詳しく、県農林事務所 |
| (70 ページ) ③教育課程内の取組 本学は、 <u>農林業生産者</u> としての深い専門性と、幅広い教養を身に付けるとともに、豊かな人間性と広い視野を持ち、地域に貢献する自立した <u>農林業生産者</u> を養成することを目指していることから、(略) | (66 ページ) ③教育課程内の取組 本学は、 <u>農林業者</u> としての深い専門性と、幅広い教養を身に付けるとともに、豊かな人間性と広い視野を持ち、地域に貢献する自立した <u>農林業者</u> を養成することを目指していることから (略) |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類)

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性に関する修正表(審査意見対応1の再掲)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| (7 ページ) (略) 本学は <u>栽培、林業、畜産の各分野における生産現場のリーダー</u> を養成するための教育機関であり、既設の農林大学の養成部においても、 <u>生産現場のリーダー</u> の養成を目指して教育を行っているが、 <u>既設の農林大学においては、教育課程や、(略)</u> | (7 ページ) (略) 本学は農林業生産者を養成するための教育機関であり、既設の農林大学の養成部においても、「 <u>農林業生産現場のリーダー</u> 」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や(略) |
| (7 ページ) 教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「 <u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u> であるとともに、自らが農林業を営む農山村 | (7 ページ) 教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「 <u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材</u> 」を養成(略) |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>栽培、林業、畜産の各分野における生産現場のリーダー</u>として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成(略)</p> | |
| <p>(7 ページ) 本県農林業の持続的発展のため、本学には、将来的に<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>や地域社会において新しい価値を創造する素養を持った、県内経済の発展と地域の活性化に貢献する自立した農林業生産者の輩出が(略)</p> | <p>(7 ページ) 本県農林業の持続的発展のため、本学には、将来的に<u>農林業経営</u>や地域社会において新しい価値を創造する素養を持った、県内経済の発展と地域の活性化に貢献する自立した農林業者の輩出が(略)</p> |
| <p>(8 ページ) しかし、今後、AI や IoT などの先端技術の農林業分野への活用により、作業の自動化や技術情報の集約化が進む中で、<u>生産現場</u>の働き方が大きく変わることが予想される。今後の現場農林業生産者は単なる労働者ではなく、<u>確かな生産技術を身につけた上で、栽培、林業、畜産の各分野の生産のプロフェッショナル</u>として</p> | <p>(8 ページ) しかし、今後、AI や IoT などの先端技術の農林業分野への活用により、作業の自動化や技術情報の集約化が進む中で、<u>農林業現場</u>の働き方が大きく変わることが予想される。今後の現場農林業者は単なる労働者ではなく、<u>確かな生産技術を身につけた上で、農林業生産のプロフェッショナル</u>として</p> |
| <p>(9 ページ) <u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに、</p> | <p>(9 ページ) <u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに、</p> |
| <p>(9 ページ) ①<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成 (略)発展の<u>土台</u>であるが</p> | <p>(9 ページ) ①<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成 (略)発展の<u>基盤</u>であるが</p> |
| <p>(9 ページ) このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤</u></p> | <p>(9 ページ) このことから、本学においては、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに、</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、</p> | |
| <p>(11 ページ) <u>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程</u> 栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、他分野の関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、生産物の付加価値向上を図るための創造力に結びつく効果も期待できる。 こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していく人材を養成するに当たり、分野ごとの縦割り教育ではなく、生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分は、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別に学びながら、他分野の関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。 1年次後半から自らのコースの生産などに関する専門的な知識・技術を学びつつ、2年間を通じて他分野の関連・共通部分を分野横断的に学ぶことにより、専門分野の生産における実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図り創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</p> | <p>(11 ページ) (追加)</p> |
| <p>(12 ページ) <u>⑤栽培、林業、畜産の各分野の経営体における臨地実務実習</u> 学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必</p> | <p>(11 ページ) <u>④農林業事業体における臨地実務実習</u> 学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内</u>の<u>栽培、林業、畜産</u>の各分野の<u>経営体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>県内<u>農林業事業体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |
| <p>(12 ページ) (略)プロジェクト研究を総合科目として配置し、自らが<u>栽培、林業、畜産</u>の各分野の<u>生産</u>に携わった際の課題へ</p> | <p>(11 ページ) (略) プロジェクト研究を総合科目として配置し、自らが<u>農林業生産</u>に携わった際の課題へ</p> |
| <p>(12 ページ) 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに農山村の地域社会を<u>生産者</u>として支えていく人材」を養成する</p> | <p>(12 ページ) 本学は、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに農山村の地域社会を<u>農林業者</u>として支えていく人材」を養成する</p> |
| <p>(14 ページ) 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材</u>であるとともに(略) 農山村の地域社会を<u>生産者</u>として(略)</p> | <p>(13 ページ) 本学は、「<u>農林業生産現場のリーダー</u>であるとともに農山村の地域社会を<u>農林業者</u>として支えていく人材」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業経営体の中核を担う人材</u>であるとともに(略)農山村の地域社会を<u>リーダー</u>として</p> |
| <p>(15 ページ) これに対し本学では、<u>生産現場のリーダーとして栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、2年という限られた修業年数で十分な人材養成を行うため、生産に関する知識や技術の修得に主眼を置いた教育を行うこととしている。</u></p> | <p>(14 ページ) これに対し本学では、<u>生産現場のリーダーとして生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、2年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(15 ページ)</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における</p> | <p>(15 ページ)</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における</p> |
| <p>(16 ページ)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力</p> | <p>(15 ページ)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応</p> <p>新設予定の専門職大学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</p> |
| <p>(16 ページ)</p> <p>これに対し、本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場を担う実践力を身につける短期大学</u>であり、将来農林業を志す学生に、実習・演習を重視した教育を行うことで、生産現場のプロフェッショナルを養成することを目的としている。</p> | <p>(15 ページ)</p> <p>これに対し、本学は<u>農林業を営む実践力を身につける短期大学</u>であり、将来農林業を志す学生に、実習・演習を重視した教育を行うことで、生産現場のプロフェッショナルを養成することを目的としている。</p> |
| <p>(18 ページ)</p> <p>(略)専門的農林業人の養成と、社会人として必要な教養教育に重点を置き、<u>農林業生産者</u>として成長するための拠り所</p> | <p>(16 ページ)</p> <p>(略)専門的農林業人の養成と、社会人として必要な教養教育に重点を置き、<u>農林業者</u>として成長するための拠り所</p> |
| <p>(19 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産に関する知識や技術のレベルアップ</u>を図るとともに、</p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学では、カリキュラムや教員組織の一層の充実により、<u>生産に関する知識や技術のレベルアップ</u>を図るとともに、</p> |
| <p>(20 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、<u>栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど</u></p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p><u>農林業の本質は生命を育むことであり、農林産物の生産知識や技術は、農林業者にとって必要不可欠なものである。</u>同時に、AI や IoT の活用など生産技術の高度化への対応や、<u>GAP (農業生産工程管理) の取組、加工・流通・販売の知識を活用した付加価値を向上さ</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</p> <p>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</p> <p>特に、近年の農林業における生産技術の高度化に対応していくためには、生産理論に関する確かな知識とそれに裏付けられた技術や、先端技術を生産現場へ導入する能力などによる実践力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなることができる人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、消費者の意識の向上などに対応していくため、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図ることができる創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたもので</p> | <p>せる取組などが近年の現場では求められている。</p> <p>また、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支えることが農林業者には求められている。</p> <p>こうした観点から、短期大学部生産科学科では確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となるとともに、先端技術の応用力や、生産物の付加価値を向上させるための加工・流通・販売に関する知識などに加え、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を身に付けた、「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成する。</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>あり、農林業者には、これらの価値を理解し、<u>守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</u></p> <p>こうしたことから、本学においては、<u>栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する基礎的な知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</u></p> | |
| <p>(21 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育んでいくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p>① <u>社会人に求められる知識を有するとともに、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を有している。</u></p> <p>② <u>農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培、林業、畜産の各分野における生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技</u></p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p><u>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業生産者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト実習を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p>① <u>社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p>② <u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>術を生産現場へ導入する能力を有している。</p> <p>③農山村の地域社会を支える<u>生産者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識を有している。</u></p> <p>④農山村の地域資源や<u>生産する農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を活用し、栽培、林業、畜産の各分野において生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> <p>⑤修得した専門知識と技術を駆使して<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。</u></p> | <p>③ <u>農山村の地域社会を支える農林業者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p>④ 農山村の地域資源や加工・流通・販売などに関する知識を活用し、<u>生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> <p>⑤ 修得した専門知識と技術を駆使して<u>農林業生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p> |
| <p>(22 ページ)</p> <p><u>・栽培、林業、畜産の各分野の後継者</u></p> <p><u>・栽培、林業、畜産の各分野の経営体における生産現場のリーダー</u></p> <p><u>・栽培、林業、畜産の各分野の関連企業(食品・種苗等) への就職 など</u></p> | <p>(19 ページ)</p> <p><u>・農林業後継者</u></p> <p><u>・農林業経営体における生産現場のリーダー</u></p> <p><u>・農林業関連企業(食品・種苗等) への就職 など</u></p> |
| <p>(27 ページ)</p> <p>トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u></p> | <p>(25 ページ)</p> <p>トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、<u>農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u></p> |
| <p>(28 ページ)</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える<u>生産者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や栽培、林業、畜産の各分野の加工・流通・販</u></p> | <p>(25 ページ)</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える<u>農林業者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や加工・流通・販売などに</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>売などに</p> | |
| <p>(32 ページ)</p> <p>学内の圃場や県研究施設の圃場で行う実習と、<u>栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営体</u>で行う約2ヶ月間にわたる臨地実務実習を実施する。</p> | <p>(29 ページ)</p> <p>学内の圃場や県研究施設の圃場で行う実習と、<u>農林業経営体</u>で行う約2ヶ月間にわたる臨地実務実習を実施する。</p> |
| <p>(33 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>(30 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内農林業事業体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |
| <p>(52 ページ)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場</u>で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</p> | <p>(48 ページ)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>生産現場</u>で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</p> |
| <p>(54 ページ)</p> <p>①臨地実務実習の流れ</p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育てることができる人材</u>」である。</p> <p>これを踏まえたディプロマ・ポリシー「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための生産に関する知識・技術や生</u></p> | <p>(50 ページ)</p> <p>①臨地実務実習の流れ</p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てることができる人材</u>」である。</p> <p>これを踏まえたディプロマポリシー「<u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力</u>」を達成するため、<u>農林業経営体での生産技術を学ぶ「企業実習」(2年次 必修 10 単位)</u>を配置し、「<u>臨地実務実習要綱</u>」を基本として実施</p> |

| 新 | 旧 |
|---|------------|
| <p>産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力」を達成するため、<u>栽培、林業、畜産の各分野の</u>経営体で生産技術を学ぶ「<u>企業実習</u>」(2年次 必修10単位)を配置し、「<u>臨地実務実習要綱(案)</u>」を基本として実施する。</p> | <p>する。</p> |

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに科目群の編成方針を加えて整合性を明らかにすること。

(対応)

カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーとの整合性が明確となるようディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

<修正後のカリキュラム・ポリシー>

- (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなるために必要な知識や、農山村の地域社会を生産者として支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2) 栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、1年次後半から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、1年次後半以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3) 少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する基礎的な知識を修得させる。
- (4) 成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類)

カリキュラム・ポリシーに関する修正表

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(23 ページ)</p> <p>① <u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなるために必要な知識や、農山村の地域社会を生産者として支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。</u></p> <p>② <u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、1年次後半から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、1年次後半以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。</u></p> <p>③ <u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する基礎的な知識を修得させる。</u></p> <p>④ <u>成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準</u></p> | <p>(21 ページ)</p> <p>① <u>社会人に求められる実用的な知識やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>② <u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する専門的な理論や技術を学ぶとともに、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③ <u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④ <u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会及び生産物の加工・流通・販売などについて学ぶとともに、それらの知識を活用して生産物の付加価値向上を図るための手法を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③ <u>農林業生産現場における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p><u>各CP (カリキュラム・ポリシー、以下同) は各DP (ディプロマ・ポリシー、以下同) に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、DP①はCP①、DP②はCP②、DP③はCP③と④、DP④はCP④、DP⑤はCP⑤に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を上げることができるようGPA制度を活用する。 (略)</p> <p>「カリキュラム・マップ」を資料 20-1 に示す。</p> | <p>に付けることができる。CPと教育課程とDPの対応について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料 20-1 に示す。</p> |
| <p>(34 ページ)</p> <p>また、学生が主体的かつ充実した学習効果を上げることができるよう成績評価に応じて下記のとおりポイント(4.0～0.0pt)で表し、平均値で表す GPA(Grade Point Average)制度を活用する。</p> | <p>(32 ページ)</p> <p>本学では、成績評価に応じて下記のとおりポイント(4.0～0.0pt)で表し、平均値で表す GPA(Grade Point Average)制度を導入する。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類)

ディプロマ・ポリシーとの整合性に関わる修正表(審査意見対応1の一部を再掲)

| 新 | 旧 |
|---|-----------------------------|
| <p>(11 ページ)</p> <p>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程</p> <p>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、他分野の関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、生産物の付加価値向上を図るための創造力に結びつく効果も期待できる。</p> <p>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していく人材を養成するに当たり、分野ごとの縦割り教育ではなく、生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分は、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別に学びながら、他分野の関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。</p> <p>1年次後半から自らのコースの生産などに関する専門的な知識・技術を学びつつ、2年間</p> | <p>(11 ページ)</p> <p>(追加)</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p><u>を通じて他分野の関連・共通部分を分野横断的に学ぶことにより、専門分野の生産における実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図り創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</u></p> | |
| <p>(20 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> <p><u>特に、近年の農林業における生産技術の高度化に対応していくためには、生産理論に</u></p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(3) 教育目標</p> <p><u>農林業の本質は生命を育むことであり、農林産物の生産知識や技術は、農林業者にとって必要不可欠なものである。同時に、AI やIoTの活用など生産技術の高度化への対応や、GAP（農業生産工程管理）の取組、加工・流通・販売の知識を活用した付加価値を向上させる取組などが近年の現場では求められている。</u></p> <p><u>また、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支えることが農林業者には求められている。</u></p> <p><u>こうした観点から、短期大学部生産科学科では確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となるとともに、先端技術の応用力や、生産物の付加価値を向上させるための加工・流通・販売に関する知識などに加え、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を身に付けた、「農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材」を養成する。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>関する確かな知識とそれに裏付けられた技術や、先端技術を生産現場へ導入する能力などによる実践力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなることができる人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、消費者の意識の向上などに対応していくため、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、生産物の付加価値向上を図ることができる創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する基礎的な知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> | |
| <p>(21 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分</p> | <p>(18 ページ)</p> <p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3) の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p><u>野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育てていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p>① <u>社会人に求められる知識を有するとともに、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を有している。</u></p> <p>② <u>農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培、林業、畜産の各分野における生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。</u></p> <p>③ <u>農山村の地域社会を支える生産者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識を有している。</u></p> <p>④ <u>農山村の地域資源や生産する農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を活用し、栽培、林業、畜産の各分野において生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> <p>⑤ <u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場にお</u></p> | <p><u>開科目・総合科目を履修することにより、農林業生産者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト実習を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p>① <u>社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p>② <u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。</u></p> <p>③ <u>農山村の地域社会を支える農林業者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p>④ <u>農山村の地域資源や加工・流通・販売などに関する知識を活用し、生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。</u></p> <p>⑤ <u>修得した専門知識と技術を駆使して農林業生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>る課題を探求し、解決に必要な情報を収集・<u>整理する手法を理解している。</u></p> | |
| <p>(22 ページ) <u>・栽培、林業、畜産の各分野の後継者</u> <u>・栽培、林業、畜産の各分野の経営体における生産現場のリーダー</u> <u>・栽培、林業、畜産の各分野の関連企業（食品・種苗等）への就職 など</u></p> | <p>(19 ページ) <u>・農林業後継者</u> <u>・農林業経営体における生産現場のリーダー</u> <u>・農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 など</u></p> |
| <p>(28 ページ) 展開科目は、農山村の地域社会を支える生産者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や<u>栽培、林業、畜産の各分野の加工・流通・販売などに</u></p> | <p>(25 ページ) 展開科目は、農山村の地域社会を支える農林業者として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や<u>加工・流通・販売などに</u></p> |
| <p>(52 ページ) ②実習の目標 基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</u></p> | <p>(48 ページ) ②実習の目標 基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>生産現場で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</u></p> |
| <p>(54 ページ) ①臨地実務実習の流れ 本学の養成する人材像は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育ていくことができる人材</u>」である。 これを踏まえたディプロマ・ポリシー「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上</u></p> | <p>(50 ページ) ①臨地実務実習の流れ 本学の養成する人材像は、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていくことができる人材</u>」である。 これを踏まえたディプロマポリシー「<u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力</u>」を達成するため、<u>農林業経営体での生産技術を学ぶ「企業実習」(2年次 必修 10 単位)</u>を</p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>等を図るための<u>生産</u>に関する知識・技術や<u>生産</u>に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力」を達成するため、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>で生産技術を学ぶ「<u>企業実習</u>」(2年次 必修10単位)を配置し、「<u>臨地実務実習要綱(案)</u>」を基本として実施する。</p> | <p>配置し、「<u>臨地実務実習要綱</u>」を基本として実施する。</p> |

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえ、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要となる資質・能力の修得が不十分なものとなる懸念があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。

(対応)

養成する人材像、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえ、

- ・未開講科目や少人数での開講科目が多数とならないように教育効果の観点からの統合
- ・類似科目の統廃合
- ・自由科目の設定

を行う。その上で、体系的な履修の観点を踏まえ、配当年次の見直しを行い、1クォーターに授業科目数が集中しないように教育課程の編成を見直す。

さらに、少数の学生で開講した場合でも、教育効果が低減しないように授業の実施方法に配慮する(別添資料1 カリキュラム・マップ、別添資料4-1 単位数・科目数の見直し状況、別添資料4-2 履修モデル)。

(詳細説明)

1 教育課程の是正

御指摘を踏まえ、養成する人材像、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえ、未開講科目が多数とならないように、科目の統廃合や自由科目の設定を行う。(別添資料4-1 単位数・科目数の見直し状況)。

①科目の統廃合

「土壌学」と「肥料・植物栄養学」は、土づくりや施肥など共通部分が多く、一体的に学んだ方が、教育効果が高いため「土壌肥料・植物栄養学」へ統合する。

「森林マネジメント」は、森林分野の環境を学ぶ部分で「森林生態学」と、森林施業を学ぶ部分で「木材生産システム」と重複があるため、「森林生態学」との重複部分を削除した上で、重複しない部分の内容の整理し、「木材生産システム」へ統合する。

②科目の自由科目化

より高度な内容を学ぶ発展的な科目や、資格取得に必要な科目の自由科目化を行う。

発展的な科目である「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、「畜産経営演習(大家畜)」、「畜産経営演習(中小家畜)」や、家畜人工授精士の資格取得に必要な科目である「畜産法規」、「人工授精論」の6科目は自由科目とする。

以上の教育課程の見直しにより、補正申請時と比較して、開講科目数(単位数)は79科目(197単位)から77科目(193単位)、卒業要件に含まれる科目数(単位数)は77科目(195単位)から69科目(181単位)となる。

未開講となる可能性がある科目を、選択科目のうち選択必修やコース必修となっていない科目とみなすと、農林業基礎科目群の「農林業史」、「農林業政策」、「県内農林業事情」、「野生鳥獣管理・利用論」、「営農と農業関連法」、生産理論科目群の「作物栽培」、「茶栽培」、「野菜栽培」、「果樹栽培」、「花き栽培」、「施設園芸」、生産技術科目群の「圃場実習Ⅱ(大家畜)」、「圃場実習Ⅱ(中小家畜)」、展開科目の「農と食の健康論」、「食品科学」、「食品加工実習」、「アグリフードシステム論」の17科目(42単位)であり、補正申請時の26科目(58単位)から減少した。

なお、このうち、「茶栽培」は「圃場実習Ⅰ・Ⅱ(茶)」を、「野菜栽培」は「圃場実習Ⅰ・Ⅱ(野菜)」を、「果樹栽培」は「圃場実習Ⅰ・Ⅱ(果樹)」を、「花き栽培」は「圃場実習Ⅰ・Ⅱ(花き)」を受講する学生が履修するため、未開講になる可能性はない。また、「圃場実習Ⅱ(大家畜)」、「圃場実習Ⅱ(中小家畜)」は畜産コースの学生が履修するため、未開講となる可能性はない。他の科目についても、開講回数と学生数の観点から見て未開講となる可能性は低いと考える。

<科目数・単位数の見直し状況>

| 申請時期 | 開講科目数・単位数 | | | | | | | 自由科目数・単位数 |
|----------|------------------|------------------|----------------|-----------------|---------------|----------------|-----------------|---------------|
| | 卒業要件に含まれる科目・単位 | | | | | | | |
| | | | 必修科目数・単位数 | 選択科目数・単位数 | | | | |
| (うち選択必修) | | | | (うちコース必修) | (うち左記以外) | | | |
| 当初申請 | 100科目 (232単位) | 100科目 (232単位) | 14科目 (35単位) | 86科目 (197単位) | 6科目 (12単位) | - | 80科目 (185単位) | - |
| 補正申請 | 79科目 (197単位) | 77科目 (195単位) | 14科目 (33単位) | 63科目 (162単位) | 5科目 (8単位) | 32科目 (96単位) | 26科目 (58単位) | 2科目 (2単位) |
| 再補正申請 | 77科目 (193単位) | 69科目 (181単位) | 14科目 (33単位) | 55科目 (148単位) | 5科目 (8単位) | 33科目 (98単位) | 17科目 (42単位) | 8科目 (12単位) |

2 配当年次の見直し

以上を踏まえた上で、科目の履修順序と体系的な学修となるよう配慮しつつ、1つのクォーターに授業科目数が集中しないように、配当年次の見直し行う(別添資料4-2 履修モデル)。

生産理論科目群では、基礎から応用へと段階的に学修できるよう科目の配置を見直す。このため、「施設園芸」は基礎的科目である「野菜栽培」や「花き栽培」の受講後とするため1年次冬期から2年次夏期に、「先端栽培技術」を1年次冬期から2年次冬期に、「森林生態学」を1年次秋期から2年次冬期に配置を見直す。

農山村の伝統・文化及び地域社会の科目群は、「農山村田園地域公共学」は、専門科目の学修を積み上げた後に学ぶようにするため、1年次夏期から2年次冬期に配置を見直す。

加工・流通・販売等の科目群について、「食と農の健康論」は応用的な内容であるため1年次冬期から2年次冬期へ配置を見直す。また、学生の受講機会を増やすため、「アグリフードシステム論」は1年次秋期から1年次秋期及び2年次夏期へ、「流通加工論」はカリキュラム・ポリシーを踏まえて栽培と畜産のコース必修としつつ、1年次冬期から2年次春・秋・冬期へ配置を見直す。

以上の7科目の見直しを行うことで、クォーターで取得する最大の単位数を14単位から13単位とする。科目の配当年次の偏りを是正し、履修バランスを整えることで教育効果を担保する。

3 少人数開講時の配慮

少人数で開講する科目として、林業コース及び畜産コースの生産理論及び生産技術の科目群、林業コースの加工・流通・販売の科目群が考えられる。講義科目は、少人数での開講でも教育効果が大きく低減する恐れは低いと考えられるものの、授業実施に当たっては、学修効果が高くなるように、学生が質問や意見を述べる機会を多く設けるなど授業の実施方法を工夫する。また、演習科目や実習科目では、講義と同様に授業方法を工夫するとともに、積極的な学生への依存が生じたり、消極的な学生が生じないよう指導する。

さらに、少人数での教育では、一人ひとりの学生の理解度に合わせて授業を進めたり、質問などの機会を持ちやすいなどのメリットがあるため、これらを活かした授業を行う。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

| 新 | | | | | | 旧 | | | | | | | |
|------------|----------|------------|--------------|------|-------|--------------|----------|------------|--------|-----|----|----|--|
| (1ページ) | | | | | | (1ページ) | | | | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | | 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | |
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | | | | | 必修 | 選択 | 自由 | |
| ② 職業専門科目 | 農林業基礎 | 農学概論 | 1春 | 2 | | | 農林業基礎 | 農学概論 | 1春 | 2 | | | |
| | | 農林業史 | 1春 | | 2 | | | 農林業史 | 1春 | | 2 | | |
| | | 農林業政策 | 1春 | | 2 | | | 農林業政策 | 1春 | | 2 | | |
| | | 県内農林業事情 | 1夏 | | 2 | | | 県内農林業事情 | 1夏 | | 2 | | |
| | | 県外農林業事情 | 1夏 | | | 1 | | 県外農林業事情 | 1夏 | | | 1 | |
| | | 海外農林業事情 | 2夏 | | | 1 | | 海外農林業事情 | 2夏 | | | 1 | |
| | | 農林業のための科学 | 1春 | 1 | | | | 農林業のための科学 | 1春 | 1 | | | |
| | | 野生鳥獣管理・利用論 | 1冬 | | 2 | | | 野生鳥獣管理・利用論 | 1冬 | | 2 | | |
| | | 営農と農業関連法 | 1秋 | | 2 | | | 営農と農業関連法 | 1秋 | | 2 | | |
| | 生産理論(栽培) | 植物生理生態学 | 1夏 | | 2 | | 生産理論(栽培) | 植物生理生態学 | 1夏 | | 2 | | |
| | | 土壌肥料・植物栄養学 | 1秋 | | 2 | | | 肥料・植物栄養学 | 1秋 | | 2 | | |
| | | 植物保護 | 1秋 | | 2 | | | 植物保護 | 1秋 | | 2 | | |
| | | 作物栽培 | 1秋 | | 2 | | | 土壌学 | 1秋 | | 2 | | |
| | | 茶栽培 | 1冬 | | 2 | | | 植物遺伝育種学概論 | 1秋 | | 2 | | |
| | | 野菜栽培 | 1冬 | | 2 | | | 作物栽培 | 1秋 | | 2 | | |
| | | 果樹栽培 | 1冬 | | 2 | | | 茶栽培 | 1冬 | | 2 | | |
| | | 花き栽培 | 1冬 | | 2 | | | 野菜栽培 | 1冬 | | 2 | | |
| | | 施設園芸 | 2夏 | | 2 | | | 果樹栽培 | 1冬 | | 2 | | |
| | 生産理論(林業) | 先端栽培技術 | 2冬 | | 2 | | 花き栽培 | 1冬 | | 2 | | | |
| | | 環境保全型農業論 | 2冬 | | 2 | | 施設園芸 | 1冬 | | 2 | | | |
| | | 森林計画学 | 森林計画学 | 1秋 | | 2 | | 先端栽培技術 | 1冬 | | 2 | | |
| | | | 造林学 | 1秋 | | 2 | | 環境保全型農業論 | 2冬 | | 2 | | |
| | | | 森林生態学 | 2冬 | | 2 | | 生産理論(林業) | 森林計画学 | 1秋 | | 2 | |
| | | | 樹木・組織学 | 1夏 | | 2 | | | 造林学 | 1秋 | | 2 | |
| | | | 木材生産システム | 2春・夏 | | 2 | | | 森林生態学 | 1秋 | | 2 | |
| | | | 森林土木論(治山・林道) | 1冬 | | 2 | | | 樹木・組織学 | 1夏 | | 2 | |
| | | 植物遺伝育種学概論 | 1秋 | | 2 | | 木材生産システム | | 2春・夏 | | 2 | | |
| | | | | | | 森林土木論(治山・林道) | 1冬 | | | 2 | | | |
| | 生産理論(畜産) | 畜産概論 | 1夏 | | 2 | | 生産理論(畜産) | 森林マナジメント | 2冬 | | 2 | | |
| | | 飼料総論 | 1秋 | | 2 | | | 畜産概論 | 1夏 | | 2 | | |
| 家畜生理解剖 | | 1秋 | | 2 | | 飼料総論 | | 1秋 | | 2 | | | |
| 家畜飼養 | | 1秋 | | 2 | | 家畜生理解剖 | | 1秋 | | 2 | | | |
| 家畜育種繁殖 | | 1冬 | | 2 | | 家畜飼養 | | 1秋 | | 2 | | | |
| 畜産法規 | | 1冬 | | | 2 | 家畜育種繁殖 | | 1冬 | | 2 | | | |
| 家畜衛生学 | | 1冬 | | 2 | | 畜産法規 | | 1冬 | | 2 | | | |
| 畜産環境・堆肥利用論 | | 2冬 | | 2 | | 家畜衛生学 | | 1冬 | | 2 | | | |
| 人工授精論 | | 2秋 | | | 2 | 畜産環境・堆肥利用論 | | 2冬 | | 2 | | | |
| | | | | | 人工授精論 | 2秋 | | | 2 | | | | |

| 新 | | | | | 旧 | | | | | | |
|-----------|--------------|--------|-----|----|--------|-----------|--------------|--------|-----|----|----|
| (2ページ) | | | | | (2ページ) | | | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | |
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | | | | 必修 | 選択 | 自由 |
| ③ 展開科目 | 農山村田園地域公共学 | 2冬 | 2 | | | ③ 展開科目 | 農山村田園地域公共学 | 1夏 | 2 | | |
| | 農と食の健康論 | 2冬 | | 2 | | | 農と食の健康論 | 1冬 | | 2 | |
| | 食品科学 | 1秋 | | 2 | | | 食品科学 | 1秋 | | 2 | |
| | 食品加工演習 | 1秋・冬 | | 2 | | | 食品加工演習 | 1秋・冬 | | 2 | |
| | アグリフードシステム論 | 1秋・2夏 | | 2 | | | アグリフードシステム論 | 1秋 | | 2 | |
| | マーケティング・販売演習 | 2春・夏・秋 | 2 | | | | マーケティング・販売演習 | 2春・夏・秋 | 2 | | |
| | 流通加工論 | 2春・秋・冬 | | 2 | | | 流通加工論 | 1冬 | | 2 | |
| | 木材加工演習 | 1冬 | | 2 | | | 木材加工演習 | 1冬 | | 2 | |
| | 木材利用・流通論 | 2夏 | | 2 | | | 木材利用・流通論 | 2夏 | | 2 | |
| | 農業経営 | 1冬 | | 2 | | | 農業経営 | 1冬 | | 2 | |
| | 畜産経営 | 1冬 | | 2 | | | 畜産経営 | 1冬 | | 2 | |
| | 林業経営 | 1冬 | | 2 | | | 林業経営 | 1冬 | | 2 | |
| | 畜産経営演習(大家畜) | 2秋 | | | 2 | | 畜産経営演習(大家畜) | 2秋 | | | 2 |
| | 畜産経営演習(中小家畜) | 2秋 | | | 2 | | 畜産経営演習(中小家畜) | 2秋 | | | 2 |
| 小計(14科目) | - | | 4 | 20 | 4 | | - | | 4 | 24 | 0 |

(新旧対照表)授業科目の概要

| 新 | | | 旧 | | |
|------------|---|----------------|---------|---|----------------|
| 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 土壌肥料・植物栄養学 | <p>(4ページ)</p> <p>植物の生産現場では土壌特性を把握したうえでの肥培管理等が重要である。本科目では、土壌の理化学的等の特性を学ぶとともに、高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、近年、肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法について考える。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(②外側正之/5回) 土壌学概論</p> <p>(④稲葉善太郎/10回) 肥料学、植物栄養学</p> | <p>オムニバス方式</p> | | (追加) | |
| 木材生産システム | <p>(7ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法などの知識を学ぶ。また、経営上必要な知識である森林法における各種制度や支援制度、森林認証制度を学び、森林施業提案書の作成演習を通じて、実務に必要なスキルを身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(① 鶴飼一博/19回) 森林における作業システムと認証制度</p> <p>(③ 近藤晃/6回) 森林経営と森林管理</p> <p>(⑤ 池田潔彦/5回) 木材加工システム</p> | <p>オムニバス方式</p> | | <p>(7ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産(伐採・搬出)に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築(車両系、架線系)、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。その上で、演習を通じて森林調査や森林施業プランを作成するスキル、森林所有や現場技術者など様々な関係者とのコミュニケーション能力・調整能力を学ぶ。なお、林業は労働災害の発生率が他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策、基本的な救急法講習も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑨ 鶴飼一博/19回) 森林における作業システム</p> <p>(⑬ 近藤晃/6回) 森林経営と森林管理</p> <p>(⑲ 池田潔彦/5回) 木材加工システム</p> | <p>オムニバス方式</p> |

(新旧対照表)シラバス

| 新 | | 旧 | |
|------|---------------|------|---------------|
| (目次) | | (目次) | |
| NO | 授業科目 | NO | 授業科目 |
| 1 | 静岡学※ | 1 | 静岡学※ |
| 2 | 情報処理演習 | 2 | 情報処理演習 |
| 3 | 農学概論※ | 3 | 農学概論※ |
| 4 | 県内農林業事情 | 4 | 県内農林業事情 |
| 5 | 県外農林業事情 | 5 | 県外農林業事情 |
| 6 | 海外農林業事情 | 6 | 海外農林業事情 |
| 7 | 野生鳥獣管理・利用論 | 7 | 野生鳥獣管理・利用論 |
| 8 | 営農と農業関連法 | 8 | 営農と農業関連法 |
| 9 | 土壌肥料・植物栄養学● | 9 | 肥料・植物栄養学 |
| 10 | 作物栽培 | 10 | 植物遺伝育種学概論 |
| 11 | 茶栽培 | 11 | 作物栽培 |
| 12 | 野菜栽培 | 12 | 茶栽培 |
| 13 | 果樹栽培 | 13 | 野菜栽培 |
| 14 | 花き栽培 | 14 | 果樹栽培 |
| 15 | 施設園芸 | 15 | 花き栽培 |
| 16 | 先端栽培技術○ | 16 | 施設園芸 |
| 17 | 環境保全型農業論 | 17 | 先端栽培技術○ |
| 18 | 森林計画学※ | 18 | 環境保全型農業論 |
| 19 | 造林学※ | 19 | 森林計画学※ |
| 20 | 木材生産システム* | 20 | 造林学※ |
| 21 | 植物遺伝育種学概論 | 21 | 木材生産システム○ |
| 22 | 畜産概論 | 22 | 森林マネジメント○ |
| 23 | 飼料総論 | 23 | 畜産概論 |
| 24 | 家畜生理解剖 | 24 | 飼料総論 |
| 25 | 家畜飼養※ | 25 | 家畜生理解剖 |
| 26 | 家畜育種繁殖 | 26 | 家畜飼養※ |
| 27 | 畜産法規 | 27 | 家畜育種繁殖 |
| 28 | 畜産環境・堆肥利用論 | 28 | 畜産法規 |
| 29 | 人工授精論 | 29 | 畜産環境・堆肥利用論 |
| 30 | 総合実習※ | 30 | 人工授精論 |
| 31 | 圃場実習Ⅰ(野菜)※ | 31 | 総合実習※ |
| 32 | 圃場実習Ⅰ(花き)※ | 32 | 圃場実習Ⅰ(野菜)※ |
| 33 | 圃場実習Ⅰ(茶)※ | 33 | 圃場実習Ⅰ(花き)※ |
| 34 | 圃場実習Ⅰ(果樹)※ | 34 | 圃場実習Ⅰ(茶)※ |
| 35 | 圃場実習Ⅰ(畜産)※ | 35 | 圃場実習Ⅰ(果樹)※ |
| 36 | 演習林実習Ⅰ※ | 36 | 圃場実習Ⅰ(畜産)※ |
| 37 | 圃場実習Ⅱ(野菜)※ | 37 | 演習林実習Ⅰ※ |
| 38 | 圃場実習Ⅱ(花き)※ | 38 | 圃場実習Ⅱ(野菜)※ |
| 39 | 圃場実習Ⅱ(茶)※ | 39 | 圃場実習Ⅱ(花き)※ |
| 40 | 圃場実習Ⅱ(果樹)※ | 40 | 圃場実習Ⅱ(茶)※ |
| 41 | 圃場実習Ⅱ(大家畜)※ | 41 | 圃場実習Ⅱ(果樹)※ |
| 42 | 圃場実習Ⅱ(中小家畜)※ | 42 | 圃場実習Ⅱ(大家畜)※ |
| 43 | 演習林実習Ⅱ※ | 43 | 圃場実習Ⅱ(中小家畜)※ |
| 44 | 企業実習* | 44 | 演習林実習Ⅱ※ |
| 45 | GAP演習※ | 45 | 企業実習 |
| 46 | 農山村田園地域公共学 | 46 | 大型機械実習 |
| 47 | 食品加工演習 | 46 | GAP演習※ |
| 48 | マーケティング・販売演習○ | 47 | 農山村田園地域公共学 |
| 49 | 木材加工演習 | 48 | 食品加工演習 |
| 50 | 木材利用・流通論○ | 49 | マーケティング・販売演習○ |
| 51 | 農業経営 | 50 | 木材加工演習 |
| 52 | 畜産経営 | 51 | 木材利用・流通論○ |
| 53 | 林業経営 | 52 | 農業経営 |
| 54 | 畜産経営演習(大家畜)○ | 53 | 畜産経営 |
| 55 | 畜産経営演習(中小家畜)○ | 54 | 林業経営 |
| 56 | プロジェクト研究※ | 55 | 畜産経営演習(大家畜)○ |
| | | 56 | 畜産経営演習(中小家畜)○ |
| | | 57 | プロジェクト研究※ |

※：補正申請で内容が変更になったシラバス
○：補正申請で新たに追加したシラバス
*：再補正申請で内容が変更になったシラバス
●：再補正申請で新たに追加したシラバス

※：補正申請で内容が変更になったシラバス
○：補正申請で新たに追加したシラバス

(新)11ページ

| | | | |
|--|--|--------------------------|------------|
| 授業名 土壌肥料・植物栄養学 Soil Fertilizers and Plant Nutrition | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義 |
| | | 履修年次 | 1年 秋期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 稲葉善太郎、外側正之 |
| 授業時間 | ①火曜日 3・4時限、②木曜日 3・4時限 | 教室 | 講義室1 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 植物の生産現場では土壌特性を把握したうえでの肥培管理等が重要である。本科目では、土壌の理化学的等の特性を学ぶとともに、高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、近年、肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法について考えると同時に、土壌肥料をめぐる情勢と展望について考察する。 | | |
| 授業目的・目標 | 高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 土壌の種類と特徴(土性、理化学性) (外側正之) | |
| | 2 | 園地別(果樹、茶、水田、畑)の特徴 (外側正之) | |
| | 3 | 肥料成分と土壌改良 (稲葉善太郎) | |
| | 4 | 土壌診断による栄養状態の改善 (稲葉善太郎) | |
| | 5 | 土壌栄養成分と植物の生育 (稲葉善太郎) | |
| | 6 | 植物の養分吸収と移動機構 (稲葉善太郎) | |
| | 7 | 環境条件と養分吸収 (稲葉善太郎) | |
| | 8 | 植物に対する微量元素の影響 (稲葉善太郎) | |
| | 9 | 土壌微生物の利用と評価 (外側正之) | |
| | 10 | 土壌病害虫の実態と対策 (外側正之) | |
| | 11 | 露地栽培における土壌管理 (稲葉善太郎) | |
| | 12 | 施設園芸における土壌管理 (稲葉善太郎) | |
| | 13 | 養液栽培における肥培管理 (稲葉善太郎) | |
| | 14 | 環境負荷低減のための施肥管理技術 (稲葉善太郎) | |
| 15 | 土壌肥料をめぐる情勢と展望 (外側正之) | | |
| キーワード | 土壌、養分吸収、土壌管理、診断、微量元素、養液栽培、環境負荷低減 | | |
| 教科書・参考書 | 必要に応じてプリント等を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験 (50%)、レポート (50%) | | |
| 関連科目 | 県内農林業事情、花き栽培、野菜栽培、果樹栽培 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

(旧)追加

(新)22ページ

| | | | |
|--|--|------------------------------------|---------------|
| 授業名 木材生産システム Forestry Harvesting System and Engineering | | 単位数 2 単位 | 授業の方法 講義・演習 |
| | | 履修年次 | 2 年 春・夏期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 池田潔彦、近藤晃、鶴飼一博 |
| 授業時間 | 火曜日 3, 4 時限 | 教室 | 講義室 5 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法などの知識を学ぶ。また、経営上必要な知識である森林法における各種制度や支援制度、森林認証制度を学び、森林施業提案書の作成演習を通じて、実務に必要なスキルを身に付ける。 | | |
| 授業目的・目標 | 森林経営で重要である木材生産(伐採・搬出)に関する理論、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築(車両系、架線系)の技術を理解した上で、森林施業提案書の作成ができる能力を身に付ける。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 森林の生産力 (近藤晃) | |
| | 2 | 森林作業法 1 主伐 (近藤晃) | |
| | 3 | 森林作業法 2 間伐 (近藤晃) | |
| | 4 | 森林作業法 3 更新 (近藤晃) | |
| | 5 | 林業労働災害の現状 (近藤晃) | |
| | 6 | 林業労働災害の対策 (近藤晃) | |
| | 7 | 木材(立木)生長形質と採材(造材) (池田潔彦) | |
| | 8 | 立木、丸太の材積・材質計測手法 (池田潔彦) | |
| | 9 | 木材の木取り及び製材規格 (池田潔彦) | |
| | 10 | 木材価格① 木材価格形成のメカニズム、伐出費用との関連 (池田潔彦) | |
| | 11 | 木材価格② 丸太及び製材品の価格とその変遷 (池田潔彦) | |
| | 12 | 作業システムと生産性 (鶴飼一博) | |
| | 13 | 林業機械の特徴 (鶴飼一博) | |
| | 14 | 車両系作業システム (鶴飼一博) | |
| | 15 | 架線系作業システム (鶴飼一博) | |
| | 16 | 工程管理と原価計算 (鶴飼一博) | |
| | 17 | 森林法 (鶴飼一博) | |
| | 18 | 森林計画制度 (鶴飼一博) | |
| | 19 | 市町村森林整備計画 (鶴飼一博) | |
| | 20 | 森林経営計画 (鶴飼一博) | |
| | 21 | 森づくりの理念と森林施業 (鶴飼一博) | |
| | 22 | 森林経営における支援措置 (鶴飼一博) | |
| | 23 | 森林施業提案書 (鶴飼一博) | |
| | 24 | 森林認証制度① (鶴飼一博) | |
| | 25 | 森林認証制度② (鶴飼一博) | |
| | 26 | 森林認証制度③ (鶴飼一博) | |
| | 27 | 演習：森林施業提案書の作成① (鶴飼一博) | |
| | 28 | 演習：森林施業提案書の作成② (鶴飼一博) | |
| | 29 | 演習：森林施業提案書の作成③ (鶴飼一博) | |
| | 30 | 森林認証を使用したビジネス展開 (鶴飼一博) | |
| キーワード | 林業労働災害、作業システム、林業機械、採材、価格形成、製材規格、森林経営計画、森林認証、森林施業提案書 | | |
| 教科書・参考書 | 配付資料、全国森林組合連合会 (2016) 「森林施業プランナーテキスト改訂版」 【参考書】藤森隆郎 (2003) 「新たな森林管理 持続可能な社会に向けて」 | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験(40%)、レポート評点 (40%)、受講態度 (20%) | | |
| 関連科目 | 造林学、木材利用・流通論、木材加工演習、森林計画学 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

| | | | | |
|--|---|------------------------------------|---------------|--|
| 授業名 木材生産システム Forestry Harvesting System and Engineering | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義・演習 | |
| | | 履修年次 | 2年 春・夏期 | |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 池田潔彦、近藤晃、鶴飼一博 | |
| 授業時間 | 火曜日 3, 4時限 | 教室 | 講義室 2 | |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | | |
| 授業概要 | 森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産(伐採・搬出)に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築(車両系、架線系)、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。その上で、演習を通じて森林調査や森林施業プランを作成するスキル、森林所有や現場技術者など様々な関係者とのコミュニケーション能力・調整能力を学ぶ。なお、林業は労働災害の発生率が他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策、基本的な救急法講習も学ぶ。 | | | |
| 授業目的・目標 | 森林経営で重要である木材生産(伐採・搬出)に関する理論、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築(車両系、架線系)の技術を理解した上で、森林施業提案書の作成ができる能力を身に付ける。 | | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | | |
| | 1 | 森林の生産力 (近藤晃) | | |
| | 2 | 森林作業法 1 主伐 (近藤晃) | | |
| | 3 | 森林作業法 2 間伐 (近藤晃) | | |
| | 4 | 森林作業法 3 更新 (近藤晃) | | |
| | 5 | 林業労働災害の現状 (近藤晃) | | |
| | 6 | 林業労働災害の対策 (近藤晃) | | |
| | 7 | 木材(立木)生長形質と採材(造材) (池田潔彦) | | |
| | 8 | 立木、丸太の材積・材質計測手法 (池田潔彦) | | |
| | 9 | 木材の木取り及び製材規格 (池田潔彦) | | |
| | 10 | 木材価格① 木材価格形成のメカニズム、伐出費用との関連 (池田潔彦) | | |
| | 11 | 木材価格② 丸太及び製材品の価格とその変遷 (池田潔彦) | | |
| | 12 | 作業システムと生産性 (鶴飼一博) | | |
| | 13 | 林業機械の特徴 (鶴飼一博) | | |
| | 14 | 車両系作業システム (鶴飼一博) | | |
| | 15 | 架線系作業システム (鶴飼一博) | | |
| | 16 | 工程管理と原価計算 (鶴飼一博) | | |
| | 17 | 演習：森林施業提案書の作成 (1) 団地設定 (鶴飼一博) | | |
| | 18 | 演習：森林施業提案書の作成 (2) 森林概況調査 (鶴飼一博) | | |
| | 19 | 演習：森林施業提案書の作成 (3) 森林デザインの決定 (鶴飼一博) | | |
| | 20 | 演習：森林施業提案書の作成 (4) 間伐計画 (鶴飼一博) | | |
| | 21 | 演習：森林施業提案書の作成 (5) 路網計画 (鶴飼一博) | | |
| | 22 | 演習：森林施業提案書の作成 (6) 作業システム (鶴飼一博) | | |
| | 23 | 演習：森林施業提案書の作成 (7) 直接事業費 (鶴飼一博) | | |
| | 24 | 演習：森林施業提案書の作成 (8) 原価管理 (鶴飼一博) | | |
| | 25 | 演習：森林施業計画書の作成 (9) 作業計画 (鶴飼一博) | | |
| | 26 | 演習：コミュニケーション (1) (鶴飼一博) | | |
| | 27 | 演習：コミュニケーション (2) (鶴飼一博) | | |
| | 28 | 演習：プレゼンテーション (1) (鶴飼一博) | | |
| | 29 | 演習：プレゼンテーション (2) (鶴飼一博) | | |
| | 30 | 演習：プレゼンテーション (3) (鶴飼一博) | | |
| キーワード | 林業労働災害、作業システム、林業機械、採材、価格形成、製材規格、森林経営計画、森林簿 | | | |
| 教科書・参考書 | 配付資料、全国森林組合連合会 (2016) 「森林施業プランナーテキスト改訂版」 | | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験(40%)、レポート評点(40%)、受講態度(20%) | | | |
| 関連科目 | 造林学、木材利用・流通論、木材加工演習 | | | |
| 履修要件 | 特になし | | | |
| 備考 | 特になし | | | |

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(24 ページ) (2) 基礎科目</p> <p><u>社会人に求められる実用的な知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を身に付けるための科目として9科目を配置する。静岡県のものでづくりのあり方や発展に向けて生産現場は何かできるのかを考える「静岡学」、</u> (略)</p> | <p>(22 ページ) (2) 基礎科目</p> <p><u>基礎科目は、社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を育成することを目的とする。</u> <u>社会人に求められる実用的な知識を学ぶ科目として、静岡県のものでづくりのあり方や発展に向けて生産現場は何かできるのかを考える「静岡学」、</u> (略)</p> |
| <p>(25 ページ) (3) 職業専門科目</p> <p><u>農林業に関する基礎的知識について学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、</u></p> | <p>(22 ページ) (3) 職業専門科目</p> <p><u>農林業に関する基礎的知識や農山村の自然環境や景観の保全について学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、</u></p> |
| <p>(25 ページ) (3) 職業専門科目</p> <p>職業専門科目では、農林業基礎は全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて学ぶ。また、栽培作目や畜種毎に専門的な技術を学修するため、<u>実習部分は、栽培コースでは「野菜」、</u> <u>「花き」、「茶」、「果樹」に、畜産コースでは、「圃場実習Ⅱ」で「大家畜」と「中小家畜」に分かれる。</u></p> | <p>(22 ページ) (3) 職業専門科目</p> <p>職業専門科目では、農林業基礎は全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて学ぶ。また、栽培コースは、<u>栽培品目毎に専門的な技術を学修するため、実習部分は、「野菜」、「花き」、「茶」、「果樹」に、畜産コースは、圃場実習Ⅱで「大家畜」と「中小家畜」に分かれる。</u></p> |
| <p>(25 ページ) ①農林業基礎の科目群</p> <p>また、(略) 森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、<u>県内の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事業」、農山村地域の資源としての野生鳥獣について学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」や、農業を営む上で必要となる法律について学ぶ「営農と農業関連法」を選択科目として配置する。</u> <u>さらに、県外や海外の農林業経営体等の現状を学ぶ、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」を自由科目として配置する。</u></p> | <p>(23 ページ) ①農林業基礎の科目群</p> <p>また、(略) 森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、<u>県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事業」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、農山村地域の資源としての野生鳥獣について学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」や、農業を営む上で必要となる法律について学ぶ「営農と農業関連法」を選択科目として配置する。</u></p> |
| <p>(26 ページ) ②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、農林業生産に関する専門的な理論や、農林業生産に活用される先端技術、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ科目群であり、<u>28科目を配置する。</u></p> | <p>(23 ページ) ②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、農林業生産に関する専門的な理論や、農林業生産に活用される先端技術、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ科目を配置する。<u>生産技術の裏づけ</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、生産技術の科目群との関連を意識した構成とする。</p> <p>生産理論の科目群は、共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、栽培、林業、畜産の各分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</p> | <p>となる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、生産技術の科目群との関連を意識した構成とした。生産理論の科目群は、共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、栽培コース、林業コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの農林業分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</p> |
| <p>(26 ページ) イ 栽培コース</p> <p>植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と<u>土壌や肥料について学ぶ「土壌肥料・植物栄養学」、病虫害管理について学ぶ「植物保護」、環境保全型農業について学ぶ「環境保全型農業論」、栽培の先端技術について学ぶ「先端栽培技術」</u>をコース必修として配置する。</p> <p>また、施設栽培の基礎理論や環境調整技術、環境に配慮した施設園芸について学ぶ「施設園芸」、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」、食用作物の栽培管理について学ぶ「作物栽培」を選択科目として配置する。「土壌肥料・植物栄養学」、「環境保全型農業」では、授業の中で環境について取り上げる。</p> <p>また、栽培コースでは、野菜、花き、茶、果樹の作物ごとに栽培技術を習得するため、「<u>圃場実習Ⅰ</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ</u>」の作目にあわせて「<u>野菜栽培</u>」、「<u>花き栽培</u>」、「<u>茶栽培</u>」、「<u>果樹栽培</u>」のいずれかを履修する。</p> | <p>(23 ページ) イ 栽培コース</p> <p><u>栽培コースの生産理論科目群として、栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病虫害、栽培体系、環境保全型農業の知識は不可欠である。また、本学科では、栽培品目毎に専門的な栽培技術を身につける構成となっている。職業専門科目のうち、生産理論科目群では、植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「肥料・植物栄養学」、病虫害管理について学ぶ「植物保護」、環境保全型農業について学ぶ「環境保全型農業」、栽培の先端技術について学ぶ「先端栽培技術」</u>をコース必修として配置する。また、<u>土壌診断や土づくりについて学ぶ「土壌学」、施設栽培の基礎理論や環境調整技術、環境に配慮した施設園芸について学ぶ「施設園芸」</u>を選択科目として配置する。また、「肥料・植物栄養学」、「土壌学」、「環境保全型農業」では、授業の中で環境について取り上げる。</p> <p>植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」、食用作物の栽培管理について学ぶ「作物栽培」を選択科目として配置する。また、栽培コースでは、野菜、花き、茶、果樹の作物ごとに栽培技術を修得するため、<u>野菜栽培を学ぶ場合は「野菜栽培」、花き栽培を学ぶ場合は、花き栽培」、茶栽培を学ぶ場合は「茶栽培」、果樹栽培を学ぶ場合は「果樹栽培」</u>を履修する。</p> |
| <p>(27 ページ) ウ 林業コース</p> | <p>(24 ページ) ウ 林業コース</p> <p><u>林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。生産理論科目群で</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>森林政策の歴史や関連法、森林調査の（略）</p> <p>「森林土木論（治山・林道）」、<u>植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。</u></p> <p>（略）</p> <p>「森林土木論（治山・林道）」、<u>植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」をコース必修として配置する。</u>「森林計画学」、「造林学」、「森林生態学」の授業の中で、環境保全について、「森林土木論（治山・林道）」、「造林学」で景観保全について取り上げる。</p> | <p><u>は、</u></p> <p>森林政策の歴史や関連法、森林調査の（略）、</p> <p>「森林土木論（治山・林道）」、<u>森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林業経営や森林認証制度について学ぶ「森林マネジメント」をコース必修として配置する。</u></p> <p>（略）</p> <p>「森林土木論（治山・林道）」、<u>森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林業経営や森林認証制度について学ぶ「森林マネジメント」をコース必修として配置する。</u>「森林計画学」、「造林学」、「森林生態学」、「森林マネジメント」の授業の中で、環境保全について、「森林土木論（治山・林道）」、「造林学」で景観保全について取り上げる。</p> |
| <p>(27 ページ) エ 畜産コース</p> <p>家畜栄養と飼料、（略） 「<u>家畜生理解剖</u>」、<u>家畜の育種や繁殖の基礎について学ぶ「家畜育種繁殖」</u>、（略）なお、「<u>畜産環境・堆肥利用論</u>」の授業の中で<u>畜産分野の環境保全</u>について、また、「<u>家畜飼養</u>」で畜産分野の先端技術について学ぶ。</p> <p>さらに、知識を深めるために、家畜人工授精士の資格取得に必要となる「<u>畜産法規</u>」、「<u>人工授精論</u>」を自由科目として配置する。</p> | <p>(24 ページ) エ 畜産コース</p> <p><u>飼育技術を学ぶ上で、家畜の生理・生態、栄養と飼料、育種や繁殖の知識、また、家畜ふん尿と環境問題の知識は不可欠である。このため、</u></p> <p>家畜栄養と飼料、（略） 「<u>家畜生理解剖</u>」、「<u>家畜育種繁殖</u>」、</p> <p>（略）なお、「<u>畜産環境・堆肥利用論</u>」の授業の中で<u>環境保全</u>について、また、「<u>家畜飼養</u>」で畜産分野の先端技術について学ぶ。</p> <p>さらに、知識を深めるために、家畜人工授精士の資格取得に必要となる「<u>畜産法規</u>」、「<u>人工授精論</u>」を<u>選択科目</u>として配置する。</p> |
| <p>(27 ページ) ③生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、農林業生産に関する専門的な技術、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、<u>17 科目を配置する。</u>共通科目と生産理論と同様に、<u>3コースに分かれて学ぶ科目</u>からなる。</p> | <p>(24 ページ) ③生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、農林業生産に関する専門的な技術、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。<u>共通科目と生産理論と同様の3コースに分かれて学ぶ科目</u>からなる。</p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(27 ページ) ア 共通</p> <p>農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全など農業の生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、<u>栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u>を必修科目として配置する。</p> | <p>(25 ページ) ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全など農業の生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習」、<u>農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u>を必修科目として配置する。</p> |
| <p>(27 ページ) イ 栽培コース</p> <p>野菜、花き、茶、果樹の<u>作目</u>ごと</p> | <p>(25 ページ) イ 栽培コース</p> <p>野菜、花き、茶、果樹の<u>作物</u>ごとに</p> |
| <p>(28 ページ) (4) 展開科目</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や<u>栽培、林業、畜産の各分野の加工・流通・販売</u>などに関する知識を活用し、</p> | <p>(25 ページ) (4) 展開科目</p> <p>展開科目は、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として必要な伝統・文化の継承などに関する知識を学び、また、農山村の地域資源や<u>加工・流通・販売</u>などに関する知識を活用し、</p> |
| <p>(28 ページ) イ 栽培コース</p> <p><u>農業経営</u>について学ぶ「農業経営」、<u>食品の加工や流通</u>について学ぶ「<u>流通加工論</u>」をコース必修として配置する。</p> <p>また、食品化学や食品衛生の基礎知識を学ぶ「食品科学」、食品や農産物の機能性成分などについて学ぶ「農と食の健康論」、食品加工の知識と技術を学ぶ「<u>食品加工演習</u>」、<u>フードシステム的な観点から食料問題を考える「アグリフードシステム論」</u>を選択科目として配置する。</p> | <p>(26 ページ) イ 栽培コース</p> <p><u>農産物の加工・流通・販売</u>などについて学ぶ科目として、<u>経営</u>について学ぶ「農業経営」をコース必修として配置する。</p> <p>また、食品化学や食品衛生の基礎知識を学ぶ「食品科学」、食品や農産物の機能性成分などについて学ぶ「農と食の健康論」、食品加工の知識と技術を学ぶ「<u>食品加工演習</u>」、<u>フードシステムとフードシステム的な観点から食料問題を考える「アグリフードシステム論</u>」、<u>食品の流通システム</u>について学ぶ「<u>流通加工論</u>」を選択科目として配置する。</p> |
| <p>(29 ページ) エ 畜産コース</p> <p><u>畜産経営</u>について学ぶ「畜産経営」、<u>食品の加工や流通</u>について学ぶ「<u>流通加工論</u>」をコース必修として配置する。</p> <p>また、食品化学や食品衛生の基礎知識を学ぶ「食品科学」、食品や農産物の機能性成分などについて学ぶ「農と食の健康論」、食品加工の知識と技術を学ぶ</p> | <p>(26 ページ) エ 畜産コース</p> <p><u>畜産物の加工・流通・販売</u>などについて学ぶ科目として、<u>経営</u>について学ぶ「畜産経営」をコース必修として配置する。</p> <p>また、食品化学や食品衛生の基礎知識を学ぶ「食品科学」、食品や農産物の機能性成分などについて学ぶ「農と食の健康論」、食品加工の知識と技術を学ぶ</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>「食品加工演習」、フードシステム的な観点から食料問題を考える「アグリフードシステム論」を選択科目として配置する。</p> <p><u>また、実際の飼育管理や動物福祉などについて学ぶ「畜産経営演習(大家畜)」、「畜産経営演習(中小家畜)」を自由科目として配置する。</u></p> | <p>「食品加工演習」、<u>フードシステムとフードシステム的な観点から食料問題を考える「アグリフードシステム論」、食品の流通システムについて学ぶ「流通加工論」、畜産経営で重要な飼養管理に加え、家畜福祉等について学ぶ「畜産経営演習(大家畜)」、「畜産経営演習(中小家畜)」を選択科目として配置する。</u></p> |

(是正事項) 生産科学科

5. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(対応)

御指摘を踏まえて、改めて内容を確認したところ、「設置の趣旨を記載した書類」の「11 実習の具体的計画」の「(1) 学内施設及び件試験研究機関等での実習」及び「(2) 隣地実務実習」では、成績評価の項目が異なるため、本来は分けて記載すべきところを、「(4) 成績評価体制及び単位認定方法」でまとめて記載しており、不明確でわかりにくく、また、「(2) 隣地実務実習」の「⑤臨地実務実習の種類と目的」の「単位認定における成績評価の項目」の内容と一致していなかった。

また、「(2) 隣地実務実習」の「⑬成績評価体制及び単位認定」の内容は、臨地実務実習指導者が記載する臨地実務実習の取組状況の評価の内容であり、標題が不適切であった。

このため、成績評価の方法について「(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習」と「(2) 隣地実務実習」のそれぞれの評価項目を明らかにし、それぞれの成績評価と単位認定の内容について記載するように「設置の趣旨を記載した書類」の内容をあたためる。あわせて、「臨地実務実習要綱(案)」及び「シラバス」の記載内容を改める。

(新旧対照表) シラバス

| 新 | 旧 |
|---|--|
| (44ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価</u> <u>(25%)、自己点検表(10%)、報告書(25%)、報告会(40%)</u> | (45ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>作業日誌(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)</u> |

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

| 新 | 旧 |
|--|--|
| (51 ページ) 11 実習の具体的計画 (1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略) | (48 ページ) 11 実習の具体的計画 (1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略) |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>⑦成績評価 成績評価は、学生の報告資料（レポート）や学生の履修態度を総合的に判断して行う。</p> <p>⑧緊急連絡体制 実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p> <p>（２）臨地実務実習（資料 28 臨地実務実習要綱（案）） （略）</p> <p>⑤臨地実務実習「企業実習」の内容 （略）</p> <p>エ 評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>b. <u>学生が作成する自己点検表</u></p> <p>c. <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>d. <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価及び単位認定 <u>全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での報告内容をもとに、総合的に判断して行う。</u></p> | <p>（２）臨地実務実習（資料 28 臨地実務実習要綱） （略）</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と内容 （略）</p> <p>エ 評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</p> <p>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</p> <p>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</p> <p>d. 事後報告書</p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価体制及び単位認定 臨地実務実習評価表は、職業人としての適性、生産管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> <p>a. 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</p> |

| 新 | 旧 | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|----|----|--------|------------------------------|--------|------------------------------|--------|--------------------------|----------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| | <p>b. 臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</p> <p>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</p> <p><評価></p> <table border="1" data-bbox="821 667 1394 1328"> <thead> <tr> <th data-bbox="821 667 986 719">評価</th> <th data-bbox="986 667 1394 719">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="821 719 986 875">A : 優秀</td> <td data-bbox="986 719 1394 875">わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 875 986 1025">B : 良好</td> <td data-bbox="986 875 1394 1025">時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 1025 986 1126">C : 普通</td> <td data-bbox="986 1025 1394 1126">助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 1126 986 1227">D : やや劣る</td> <td data-bbox="986 1126 1394 1227">多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="821 1227 986 1328">E : 劣る</td> <td data-bbox="986 1227 1394 1328">常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(略)</p> <p>(4) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価及び単位認定は、学生の報告資料(レポート)や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(5) 緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p> | 評価 | 内容 | A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 |
| 評価 | 内容 | | | | | | | | | | | | |
| A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | |
| B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | |
| C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | |
| D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | |
| E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 | | | | | | | | | | | | |

| 新 | 旧 | | | | | | | | |
|--|--|-------------------------|-----|-------|----|------|----------|-------------------------|-----|
| <p>(5 ページ)</p> <p>3. 「企業実習」の内容 (2 年次 春・夏・秋 期 必修 10 単位)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(4) <u>評価項目</u></p> <p style="padding-left: 2em;">①臨地実務実習指導者による取組状況の <u>評価</u></p> <p style="padding-left: 2em;">②学生が作成する作業記録・自己点検表</p> <p style="padding-left: 2em;">③学生が作成する報告書</p> <p style="padding-left: 2em;">④臨地実務実習後の報告会での報告内容</p> <p>(5) <u>評価事項</u></p> <p style="padding-left: 2em;">「企業実習」において、身に付ける技能を明らかにするため、評価事項を下表に示す。</p> | <p>(3 ページ)</p> <p>3. 「企業実習」の内容 (2 年次 春・夏・秋 期 必修 10 単位)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>4. <u>評価方法</u></p> <p>全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。また、評価項目を下表に示す。</p> | | | | | | | | |
| <p>(16 ページ)</p> <p>V (全員) 臨地実務実習の評価</p> <p>1. 目的</p> <p>臨地実務実習の評価は、<u>栽培、林業、畜産の各分野生産現場</u>としての態度・適性、実習の到達度について、指導の程度と学生の状況について評価し、臨地実務実習の状況を把握することを目的としている。</p> <p>2. <u>臨地実務実習指導者による実習の取組状況評価</u></p> <p>(1) 臨地実務実習指導者が毎日、出欠の状況を確認し、臨地実務実習出欠表 (様式第 7 号) へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>(2) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表 (様式第 8～10 号) を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実</p> | <p>(14 ページ)</p> <p>V (全員) 臨地実務実習の評価</p> <p>1. 目的</p> <p>臨地実務実習の評価は、<u>農林業経営者</u>としての態度・適性、実習の到達度について、指導の程度と学生の状況について評価し、臨地実務実習の状況を把握することを目的としている。</p> <p>2. <u>評価項目</u></p> <p>実習の成績評価は、①評価表、②自己点検表、③報告書、④報告会で行う。また、評価の比率を下表に示す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">評価項目</th> <th style="text-align: center;">様式等</th> <th style="text-align: center;">(作成者)</th> <th style="text-align: center;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">①評価表</td> <td style="text-align: center;">(様式 8 号)</td> <td style="text-align: center;">(臨 地 実 務 実 習 指 導</td> <td style="text-align: center;">25%</td> </tr> </tbody> </table> | 評価項目 | 様式等 | (作成者) | 比率 | ①評価表 | (様式 8 号) | (臨 地 実 務 実 習 指 導 | 25% |
| 評価項目 | 様式等 | (作成者) | 比率 | | | | | | |
| ①評価表 | (様式 8 号) | (臨 地 実 務 実 習 指 導 | 25% | | | | | | |

| 新 | 旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|--------|------------------------------|--------|------------------------------|--------|--------------------------|--------------|-----------------------------|--------|--------------------------|--|----|----|--------|------------------------------|--------|------------------------------|--------|--------------------------|----------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| <p>習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>(3) 臨地実務指導者は、臨地実務実習評価表に署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p> | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 60%;">者)</th> <th style="width: 30%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②自己点検表</td> <td>(様式10号) (学生)</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>③報告書</td> <td>(様式11号) (学生)</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>④報告会</td> <td>(パワーポイントを使った発表)</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table> | | 者) | | ②自己点検表 | (様式10号) (学生) | 10% | ③報告書 | (様式11号) (学生) | 25% | ④報告会 | (パワーポイントを使った発表) | 40% | | | | | | | | | | | | |
| | 者) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②自己点検表 | (様式10号) (学生) | 10% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③報告書 | (様式11号) (学生) | 25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④報告会 | (パワーポイントを使った発表) | 40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 臨地実務実習評価表の記入方法</p> <p>臨地実務実習指導者は、実習の取組状況について、臨地実務実習評価表を用いて評価する。評価表は、職業人としての適性、生産管理、作業管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっており、下表の評価基準のとおり5段階で評価する。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 85%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 成績評価及び単位認定</p> <p>全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。実習の成績評価は、①臨地実務実習指</p> | 評価 | 内容 | A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 | <p>3. 評価表による評価方法</p> <p>臨地実務実習評価表は、職業人としての適性、生産管理、作業管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。臨地実務実習指導者は、下表の評価基準のとおり5段階で評価する。なお、到達度の各段階は、次の通りである。に沿って、評価を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 85%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 評価の手順</p> <p>(1) 臨地実務実習指導者が毎日、出欠の状況を確認し、臨地実務実習出欠表(様式第</p> | 評価 | 内容 | A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 |
| 評価 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A : 優秀 | わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B : 良好 | 時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C : 普通 | 助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D : やや劣る | 多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E : 劣る | 常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 新 | | | | 旧 |
|--|-----------------|-------------|-----|--|
| <p>導者による取組状況の評価、②学生が作成する自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での内容を、下表に基づいて総合的に判断して行う。</p> | | | | <p>7号)へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>(2) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表(様式第8～10号)を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>(3) 臨地実務指導者は、臨地実務実習評価表に署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p> <p>5. 単位認定</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> |
| 評価項目 | 様式等 | (作成者) | 比率 | |
| ①評価表 | (様式8号) | (臨地実務実習指導者) | 25% | |
| ②自己点検表 | (様式10号) | (学生) | 10% | |
| ③報告書 | (様式11号) | (学生) | 25% | |
| ④報告会 | (パワーポイントを使った発表) | - | 40% | |

6. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習は実務に従事するが、例えば、「生産管理 林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許や免許などの有無が不明確であるため、実習の履修要件である基本的な技術や必要となる知識等を説明しつつ、実習の具体的な内容を明らかにすること。

(対応)

御指摘を踏まえ、臨地実務実習に望む上で前提となる知識・技術や、資格・免許について明確にし、実習の具体的な内容を明らかにする。

(詳細説明)

本学の臨地実務実習として「企業実習」を配置している。本科目の受講前には、栽培コースでは、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ（花き）」、「圃場実習Ⅰ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ（茶）」の各科目で行う刈払機作業安全衛生教育を修了する。また、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（花き）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（茶）」において、実習を行う経営体の作目（野菜、花き、果樹、茶）にあわせて、各作目の特徴や作型に関する知識、栽培管理の知識・技術を習得する。さらに、「企業実習」において、大型農業機械を使用した実習を予定している学生については、臨地実務実習実施前に「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

林業コースは、「演習林実習Ⅰ」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「演習林実習Ⅰ・Ⅱ」において森林・林業生産の基礎知識・技術や、チェーンソーの基本操作と整備方法を習得する。また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

畜産コースは、「圃場実習Ⅰ（畜産）」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「圃場実習Ⅰ（畜産）」、「圃場実習Ⅱ（大家畜）」、「圃場実習Ⅱ（中小家畜）」において、家畜の特徴や生理・習性に関する知識、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

当初申請や補正申請では、具体的な知識や技術、資格や免許についての記載が不十分であったため、具体的な内容となるように「設置の趣旨を記載した書類」及びシラバスの記載を改める。

<「企業実習」に必要な知識・技術や資格・免許等>

| コース | 必要な生産知識・技術 | 資格・免許等 |
|-------|--|----------------------------------|
| 栽培コース | ・各作目の特徴や作型に関する知識 ・各作目の栽培管理の知識・技術 | ・刈払機作業安全衛生教育修了 ・大型特殊免許（農耕機限定） |
| 林業コース | ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 | ・刈払機作業安全衛生教育修了 ・大型特殊免許（農耕車限定） |

| コース | 必要な生産知識・技術 | 資格・免許等 |
|-----------|---|--|
| 畜産 コース | <ul style="list-style-type: none"> 家畜の特徴や生理・習性に関する知識 家畜飼養管理の基礎知識・技術 | <ul style="list-style-type: none"> 刈払機作業安全衛生教育修了 大型特殊免許（農耕機限定） |

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（48 ページ）

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(52 ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習</p> <p>(略)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場</u>で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般（水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業）の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ（花き）」、「圃場実習Ⅰ（茶）」、「圃場実習Ⅰ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ（畜産）」、「演習林実習Ⅰ」を配置する。</p> <p><u>生産現場では、危険作業を伴うことがある。このため、各講義の始めには、危険箇所の確認や、危険な作業を伴う刈払機や運搬車などの安全使用や、安全作業のための講習を行う。</u></p> <p>イ 2年次</p> <p><u>作目毎の実践的な生産技術を学ぶため</u>「圃場実習Ⅱ（野菜）」、「圃場実習Ⅱ（花</p> | <p>(48 ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習</p> <p>(略)</p> <p>②実習の目標</p> <p>基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、<u>生産現場</u>で活用できる実践的生産技術を習得することを目標とする。</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般（水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業）の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ（花き）」、「圃場実習Ⅰ（茶）」、「圃場実習Ⅰ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ（畜産）」、「演習林実習Ⅰ」を配置する。</p> <p>イ 2年次</p> <p>実践的な生産技術を学ぶため「圃場実習Ⅱ（野菜）」、「圃場実習Ⅱ（花き）」、</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>き)」、「圃場実習Ⅱ(茶)」、「圃場実習Ⅱ(果樹)」、「圃場実習Ⅱ(大家畜)」、「圃場実習Ⅱ(中小家畜)」、「演習林実習Ⅱ」を配置する。</p> <p>さらに、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>農林業全般(水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「圃場実習Ⅰ(野菜)(花き)」、「茶(果樹)(畜産)」、「演習林実習Ⅰ」については実習圃場で、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「大型機械実習」については機械研修場で実施する。</p> <p>実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習である「圃場実習Ⅱ(野菜)」、「圃場実習Ⅱ(花き)」、「圃場実習Ⅱ(茶)」、「圃場実習Ⅱ(果樹)」、「圃場実習Ⅱ(畜産)」、「演習林実習Ⅱ」については、<u>実習圃場及び県有施設</u>である農林技術研究所(本所)、同茶業研究センター、同果樹研究センター、同森林・林業研究センター、県有林で実施する(資料26)。</p> <p>農林技術研究所、畜産技術研究所及び各センターで行う実習については、通常の栽培管理等の業務の一部を担う形で実施する。これらの県有施設は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノ</p> | <p>「圃場実習Ⅱ(茶)」、「圃場実習Ⅱ(果樹)」、「圃場実習Ⅱ(大家畜)」、「圃場実習Ⅱ(中小家畜)」、「演習林実習Ⅱ」を配置する。</p> <p>さらに、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>農林業全般(水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「圃場実習Ⅰ(野菜)」、「圃場実習Ⅰ(花き)」、「圃場実習Ⅰ(茶)」、「圃場実習Ⅰ(果樹)」、「圃場実習Ⅰ(畜産)」、「演習林実習Ⅰ」については実習圃場で、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「大型機械実習」については機械研修場で実施する。</p> <p>実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習である「圃場実習Ⅱ(野菜)」、「圃場実習Ⅱ(花き)」、「圃場実習Ⅱ(茶)」、「圃場実習Ⅱ(果樹)」、「圃場実習Ⅱ(畜産)」、「演習林実習Ⅱ」については、<u>県有施設</u>である農林技術研究所(本所)、同茶業研究センター、同果樹研究センター、同森林・林業研究センター、県有林で実施する(資料26)。</p> <p>農林技術研究所、畜産技術研究所及び各センターで行う実習については、通常の栽培管理等の業務の一部を担う形で実施する。これらの県有施設は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノ</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>ウハウが蓄積されていることから<u>本学</u>の実習についても支障なく実施できる。</p> <p>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、<u>本学</u>が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</p> <p>また、<u>静岡県立農林環境専門職大学</u>及び<u>本学</u>と、県有施設を所管する<u>県試験研究機関</u>等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</p> <p>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、<u>静岡県立農林環境専門職大学</u>と<u>本学</u>の実習担当教員や、技術職員等からなる「<u>実習圃場委員会</u>」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> | <p>ウハウが蓄積されていることから、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>の実習についても支障なく実施できる。</p> <p>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</p> <p>また、<u>静岡県立農林環境専門職大学</u>及び<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>と、県有施設を所管する<u>県試験研究機関</u>等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</p> <p>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、<u>静岡県立農林環境専門職大学</u>と<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>の実習担当教員や、技術職員等からなる「<u>実習圃場委員会</u>」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> |
| <p>(2) <u>臨地実務実習</u> (資料 28 <u>臨地実務実習要綱</u> (案))</p> <p>① <u>臨地実務実習の流れ</u></p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者と</u></p> | <p>(2) <u>臨地実務実習</u> (資料 28 <u>臨地実務実習要綱</u>)</p> <p>① <u>臨地実務実習の流れ</u></p> <p>本学の養成する人材像は、「<u>農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材</u>」である。</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>して、それらを守り育てていくことができる人材」である。</p> <p>これを踏まえたディプロマ・ポリシー「栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力」を達成するため、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>（2年次 必修 10 単位）を配置し、「<u>臨地実務実習要綱(案)</u>」を基本として実施する。</p> <p>②本学としての取り組み</p> <p>本学としての教育成果をあげるための取り組みとして、職業専門科目に多くの実習科目を配置し、学内実習において、<u>栽培、林業、畜産の各分野の基礎的な知識や生産技術を学修した上で、臨地実務実習を実施する履修体系とする。</u>学内実習では、チェック表を作成して学生が学修すべき知識や技能を明確にし、実習を実施する。</p> <p>成績評価は、<u>臨地実務実習の評価基準を本学として統一し、専任教員による認定ではなく、臨地実務実習委員会による認定とする。</u></p> <p>臨地実務実習の水準を保つため、臨地実務実習終了後に、学生が臨地実務先を評価するためのアンケート調査を実施する。この結果は、<u>臨地実務実習の目標と学修に乖離がないかを確認し、臨地実務実習指導者と専任教員の連携した指導に活用する。</u></p> <p>③臨地実務実習計画の概要</p> <p><u>ディプロマ・ポリシー「栽培、林業、畜産の各分野の生産現場の生産性向上等を図るための生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入</u></p> | <p>これを踏まえたディプロマポリシー「<u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力</u>」を達成するため、<u>農林業経営体での生産技術を学ぶ「企業実習」</u>（2年次 必修 10 単位）を配置し、「<u>臨地実務実習要綱</u>」を基本として実施する。（略）</p> <p>②専門職短期大学としての取り組み</p> <p><u>専門職短期大学としての教育成果をあげるための取り組みとして、職業専門科目に多くの実習科目を配置し、学内実習において、それぞれの分野の基礎的な知識や生産技術を学修した上で、臨地実務実習を実施する履修体系とする。</u>学内実習では、チェック表を作成して学生が学修すべき知識や技能を明確にし、実習を実施する。</p> <p>成績評価は、<u>臨地実務実習の評価基準を本学として統一し、専任教員による認定ではなく、臨地実務実習委員会による認定とする。</u></p> <p>臨地実務実習の水準を保つため、臨地実務実習終了後に、学生が臨地実務先を評価するためのアンケート調査を実施する。この結果は、<u>臨地実務実習の目標と学修に乖離がないかを確認し、臨地実務実習指導者と専任教員の連携した指導に活用する。</u></p> <p>③臨地実務実習計画の概要</p> <p>本学の養成する人材像である「<u>農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>する能力」を身に付けることを目標に、農林業経営体での実習を通じて、農林業経営体を持つ優れた生産技術を学び、実践的な知識や生産技術を修得することを目標とする。</p> <p>臨地実務実習として、2年次に「企業実習」（必修10単位）を配置する。</p> | <p>へ導入する能力」を身に付けることを目標に、農林業経営体での実習を通じて、農林業経営体を持つ優れた生産技術を学び、実践的な知識や生産技術を修得することを目標とする。</p> <p>臨地実務実習として、2年次に「企業実習」（必修10単位）を配置する。</p> |
| <p>④臨地実務実習の実施</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら、<u>栽培、林業、畜産の各分野</u>の実際について体験し、各実習の目標を達成することで、農林業経営に必要な能力を養う。</p> | <p>④臨地実務実習の実施</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら、<u>農林業の実際</u>について体験し、各実習の目標を達成することで、農林業経営に必要な能力を養う。</p> |
| <p>⑤臨地実務実習「企業実習」の内容</p> <p>ア 目的</p> <p>先進的な<u>栽培、林業、畜産の各分野</u>での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>イ 目標</p> <p>a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</p> <p>b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>ウ 方法</p> <p>実習は、「<u>臨地実務実習要綱(案)</u>」（資料28）に基づいて実施する。</p> <p>2年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1～4名を予定している。</p> <p><u>「企業実習」の受講の前には、栽培コースでは、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ（花き）」、「圃場実習Ⅰ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ（茶）」の各科目で行う刈払機作業安全衛生教育を修了する。ま</u></p> | <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p> <p>ア 目的</p> <p>先進的な<u>農林業経営体での実習</u>を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>イ 目標</p> <p>a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</p> <p>b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>ウ 方法</p> <p>実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」（資料28）に基づいて実施する。</p> <p>2年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1～4名を予定している。</p> <p><u>企業実習の受講に当たっては、「圃場実習Ⅰ」、「演習林実習Ⅰ」において、基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p><u>た、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（花き）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（茶）」において、実習を行う経営体の作目（野菜、花き、果樹、茶）にあわせて、各作目の特徴や作型に関する知識、栽培管理の知識・技術を習得する。さらに、露地栽培を行う経営体での実習の場合は、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</u></p> <p><u>林業コースは、「演習林実習Ⅰ」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「演習林実習Ⅰ・Ⅱ」において森林・林業生産の基礎知識・技術や、チェーンソーの基本操作と整備方法を、また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</u></p> <p><u>畜産コースは、「圃場実習Ⅰ（畜産）」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」において、家畜の特徴や生理・習性に関する知識、家畜飼養管理の基礎知識・技術を、また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場</p> | <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場</p> |

| 新 | 旧 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|--------|--------------|---|---|--------------|--|---|--------------|---|---|--|
| <p>で必要となる技術について理解を深める。</p> | <p>で必要となる技術について理解を深める。</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>＜「企業実習」に必要な知識・技術や資格・免許等＞</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="231 468 363 568">コース</th> <th data-bbox="363 468 576 568">必要な生産知識・技術</th> <th data-bbox="576 468 794 568">資格・免許等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="231 568 363 871"> <p>栽培コース</p> </td> <td data-bbox="363 568 576 871"> <p>・各作目の特徴や作型に関する知識 ・各作物の栽培管理の知識・技術</p> </td> <td data-bbox="576 568 794 871"> <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 871 363 1323"> <p>林業コース</p> </td> <td data-bbox="363 871 576 1323"> <p>・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</p> </td> <td data-bbox="576 871 794 1323"> <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1323 363 1794"> <p>畜産コース</p> </td> <td data-bbox="363 1323 576 1794"> <p>・家畜の特徴や生理・習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術</p> </td> <td data-bbox="576 1323 794 1794"> <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> </td> </tr> </tbody> </table> | コース | 必要な生産知識・技術 | 資格・免許等 | <p>栽培コース</p> | <p>・各作目の特徴や作型に関する知識 ・各作物の栽培管理の知識・技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> | <p>林業コース</p> | <p>・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定)</p> | <p>畜産コース</p> | <p>・家畜の特徴や生理・習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> | |
| コース | 必要な生産知識・技術 | 資格・免許等 | | | | | | | | | | | |
| <p>栽培コース</p> | <p>・各作目の特徴や作型に関する知識 ・各作物の栽培管理の知識・技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>林業コース</p> | <p>・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定)</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>畜産コース</p> | <p>・家畜の特徴や生理・習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術</p> | <p>・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕機限定)</p> | | | | | | | | | | | |
| <p>(略)</p> <p>⑭緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応を臨地実務実習</p> | <p>(略)</p> <p>⑭緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応を臨地実務実習</p> | | | | | | | | | | | | |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| 要綱(案) (資料 28) に定め、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。 | 要綱 (資料 28) に定め、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。 |

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料 28 臨地実務実習要綱

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(3 ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p><u>(削除)</u></p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「農林業生産現場の生産性向上等を図るための、農林業生産に関する専門的な知識・技術」を身につける。</p> <p>臨地実務実習は、2年次に「企業実習」(必修 10 単位) を開講する。</p> | <p>(3 ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p>本学で実施する臨地実務実習の概要は次の通りである。</p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「農林業生産現場の生産性向上等を図るための、農林業生産に関する専門的な知識・技術」を身につける。</p> <p>臨地実務実習は、2年次に「企業実習」(10 単位) を開講する。臨地実務実習の教育効果を高めるため、「企業実習」の履修前には、「総合実習」、「圃場実習 I ・演習林実習 I」、「圃場実習 II ・演習林実習 II」を配置し、農林業全般にわたる生産知識や生産技術の基礎について学ぶ実習を実施する。</p> |

| | | | | | | | | | | | |
|------|---------|-----------------|----|------------------------------|----------------|--|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 新 | (3 ページ) | | | | | | | | | | |
| | 分類 | 1年次 | | | | 2年次 | | | | | |
| 生産技術 | | 春期 | 夏期 | 秋期 | 冬期 | 春期 | 夏期 | 秋期 | | | |
| | 学内 | (必修2単位) 総合実習 | | | | (栽培コース必修4単位) 圃場実習Ⅰ(野菜) | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(野菜) | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(野菜) | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(野菜) | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(花き) | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(果樹) |
| 臨地 | | | | (栽培コース必修4単位) 圃場実習Ⅰ(花き) | | (栽培コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(茶) | | | | | |
| | | | | (栽培コース必修4単位) 圃場実習Ⅰ(果樹) | | (林業コース必修4単位) 演習林実習Ⅱ | | | | | |
| | | | | (栽培コース必修4単位) 圃場実習Ⅰ(茶) | | (畜産コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(大家畜) | | | | | |
| | | | | (林業コース必修4単位) 演習林実習Ⅰ | | (畜産コース必修6単位) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) | | | | | |
| | | | | (畜産コース必修4単位) 圃場実習Ⅰ(畜産) | | ※春期～秋期の期間にいずれか1回受講 (必修2単位) 大型機械実習 | | | (必修2単位) 大型機械実習 | | |
| | | | | | | ※春期～秋期の期間にいずれか1回受講 (必修2単位) GAP演習 | | | (必修2単位) GAP演習 | | |
| | | | | | | ※春期～秋期の期間にいずれか1回受講 (必修10単位) 企業実習 | | | (必修10単位) 企業実習 | | |
| | | | | | | ※春期～秋期の期間にいずれか1回受講 (必修2単位) マーケティング・販売演習 | | | (必修2単位) マーケティング・販売演習 | | |
| | | | | 畜産コース (選択2単位) 食品加工演習 | (選択2単位) 食品加工演習 | | | | | | |
| | | | | 林業コース (林業コース必修2単位) 木材加工演習 | | | | | | | |
| 旧 | 追加 | | | | | | | | | | |

| | |
|--|---|
| 新 | 旧 |
| (4 ページ) | (3 ページ) |
| 2. 臨地実務実習の目標 | 2. 臨地実務実習の目標 |
| 臨地実務実習指導者の指導を受けながら農林業現場を体験し、 <u>目標を達成することで実践的な生産技術を養う。</u> | 臨地実務実習指導者の指導を受けながら農林業現場を体験し、 <u>各臨地実務実習の目標を達成することで、実践的な生産技術を養う。</u> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>3. 「企業実習」の内容（2年次 春・夏・秋期 必修10単位）</p> <p>（1）目的</p> <p>先進的な農林業経営体の生産現場での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>（2）目標</p> <p>①生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</p> <p>②各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>（3）方法</p> <p>2年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。</p> <p>「企業実習」の受講前は、栽培コースでは、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ（花き）」、「圃場実習Ⅰ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ（茶）」の各科目で行う刈払機作業安全衛生教育を修了する。また、「圃場実習Ⅰ（野菜）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（花き）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（果樹）」、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ（茶）」において、実習を行う経営体の作目（野菜、花き、果樹、茶）にあわせて、各作目の特徴や作型に関する知識、栽培管理の知識・技術を習得する。さらに、大型機械を利用した実習先を予定している学生は、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</p> <p>林業コースは、「演習林実習Ⅰ」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「演習林実習Ⅰ・Ⅱ」において森林・林業生産の基礎知識・技術や、チェーンソーの基本操作と整備方法を習得する。また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</p> | <p>3. 「企業実習」の内容（2年次 春・夏・秋期 必修10単位）</p> <p>（1）目的</p> <p>先進的な農林業経営体の生産現場での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>（2）目標</p> <p>①生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</p> <p>②各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>（3）方法</p> <p>2年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。</p> <p><u>企業実習の受講に当たっては、「圃場実習Ⅰ・Ⅱ」、「演習林実習Ⅰ・Ⅱ」で、基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>畜産コースは、「圃場実習Ⅰ（畜産）」において刈払機作業安全衛生教育を修了し、「圃場実習Ⅰ（畜産）」、「圃場実習Ⅱ（大家畜）」、「圃場実習Ⅱ（中小家畜）」において、家畜の特徴や生理・習性に関する知識、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。また、「大型機械実習」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。</p> <p>当初申請や補正申請では、具体的な知識や技術、資格や免許についての記載が不十分であったため、具体的な内容となるように「設置の趣旨を記載した書類」及びシラバスの記載を改める。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p> | <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。</p> <p>実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p> |

| 新 | 旧 | |
|---|--|---|
| <p><「企業実習」に必要な知識・技術や資格・免許等></p> | | |
| <p><u>コース</u></p> | <p><u>必要な生産知識・技術</u></p> | <p><u>資格・免許等</u></p> |
| <p><u>栽培コース</u></p> | <p>・各作目の特徴や作型に関する知識 ・各作物の栽培管理の知識・技術</p> | <p>・刈払機作業者安全衛生教育修了 ・大型特殊免許(農耕機限定)</p> |
| <p><u>林業コース</u></p> | <p>・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</p> | <p>・刈払機作業者安全衛生教育修了 ・大型特殊免許(農耕車限定)</p> |
| <p><u>畜産コース</u></p> | <p>・家畜の特徴や生理・習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術</p> | <p>・刈払機作業者安全衛生教育修了 ・大型特殊免許(農耕機限定)</p> |
| <p>(4) <u>評価項目</u></p> <p>① <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>② <u>学生が作成する作業記録・自己点検表</u></p> <p>③ <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>④ <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> | | |

(新旧対照表) シラバス

(新) 31ページ

| | | | | |
|---|--|---|-----------------------|--|
| 授業名 圃場実習Ⅰ(野菜) Farm Practice I (Vegetables) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 | |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 | |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 中根健、増田壽彦、坂口良介、吉村親、大石竜 | |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 実習圃場 | |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | | |
| 授業概要 | 野菜は非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、ブロッコリー、レタスなどの秋冬野菜や、本県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。 | | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境制御技術を用いた栽培管理について理解し、説明できる。 ④環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 | | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | | |
| | 2～5 | 農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、刈払機の安全講習) | | |
| | 6～20 | イチゴ栽培(促成栽培) ・栽培管理：親株定植、管理作業、収穫、出荷調整、養液管理 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | | |
| | 21～34 | トマト栽培(冬作トマト) ・栽培管理：育苗、管理作業、収穫、出荷調整、養液管理 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断 ・環境制御技術 | | |
| | 35～44 | 温室メロン ・栽培管理：育苗、管理作業、収穫、出荷調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断 | | |
| | 45～54 | 秋冬野菜(ブロッコリー、レタス等) ・栽培管理：土づくり、育苗、定植、管理作業、収穫、出荷調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | | |
| | 55～56 | 視察1(環境保全型農業) | | |
| | 57～58 | 視察2(先端技術) | | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | | |
| キーワード | イチゴ、トマト、温室メロン、秋冬野菜、環境に配慮した栽培、先端技術 | | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ、野菜栽培 | | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。野菜栽培を履修していること。 | | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|-----------------------|
| 授業名 圃場実習 I (野菜) Farm Practice I (Vegetables) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 中根健、増田壽彦、坂口良介、吉村親、大石竜 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2 時限 水曜日 1～2 時限 | 教室 | 圃場 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 野菜は非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、ブロッコリー、レタスなどの秋冬野菜や、本県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境制御技術を用いた栽培管理について理解し、説明できる。 ④環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(圃場内の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～18 | イチゴ栽培 (促成栽培) ・栽培管理：親株定植、管理作業、収穫、出荷調整、養液管理 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | |
| | 19～34 | トマト栽培 (冬作トマト) ・栽培管理：育苗、管理作業、収穫、出荷調整、養液管理 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断 ・環境制御技術 | |
| | 35～44 | 温室メロン ・栽培管理：育苗、管理作業、収穫、出荷調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断 | |
| | 45～54 | 秋冬野菜 (ブロッコリー、レタス等) ・栽培管理：土づくり、育苗、定植、管理作業、収穫、出荷調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | |
| | 55～56 | 視察1 (環境保全型農業) | |
| | 57～58 | 視察2 (先端技術の視察) | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | |
| キーワード | イチゴ、トマト、温室メロン、秋冬野菜、環境に配慮した栽培、先端技術 | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート (50%)、履修態度 (50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ、野菜栽培 | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。野菜栽培を履修していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|---|--|---|-------------|
| 授業名 圃場実習 I (花き) Farm Practice I (Flower) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 五十右薫、稲葉善太郎 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 実習圃場 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方の特徴を持っている。本科目では、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗などの鉢物の特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、最新の切花の品質保持技術について学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 ④切花の品質保持技術について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | |
| | 2～5 | 農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、刈払機の安全講習) | |
| | 6～30 | 切花栽培(バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラ、草花等) ・栽培管理：播種、定植、さし芽、摘心、収穫、調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・品質保持技術 | |
| | 31～54 | 鉢花栽培(洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗等) ・栽培管理：播種、挿し木、鉢上げ、摘心、収穫、調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・ランの無菌は種と継代培養 | |
| | 55～56 | 視察1(環境保全型農業) | |
| | 57～58 | 視察2(先端技術) | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | |
| キーワード | バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラ、草花、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗、環境に配慮した栽培、品質保持技術、先端技術、環境に配慮した花き栽培 | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ、花き栽培 | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。花き栽培を履修していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|---|--|--|-------------|
| 授業名 圃場実習 I (花き) Farm Practice I (Flower) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 五十右薫、稲葉善太郎 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 圃場 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗などの鉢物の特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、最新の切花の品質保持技術について学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 ④切花の品質保持技術について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(圃場内の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～28 | 切花栽培 (バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラ、草花等) ・栽培管理：播種、定植、さし芽、摘心、収穫、調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・品質保持技術 | |
| | 29～54 | 鉢花栽培 (洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗等) ・栽培管理：播種、挿し木、鉢上げ、摘心、調整 ・調査方法：生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・ランの無菌は種と継代培養 | |
| | 55～56 | 視察 1 (環境保全型農業) | |
| | 57～58 | 視察 2 (先端技術) | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | |
| キーワード | バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラ、草花、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗、環境に配慮した栽培、品質保持技術、先端技術、環境に配慮した花き栽培 | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート (50%)、履修態度 (50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習 II、花き栽培 | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。花き栽培を履修していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|---------------------------------------|--|--|-------------|
| 授業名 圃場実習Ⅰ(茶) Farm Practice I (Tea) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 中野敬之、外側正之 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 実習圃場 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | <p>チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受ける。特に、秋整枝は気象の推移や来年度の作業計画を考慮した上で実施する必要がある。本科目では、整枝や防除、施肥、茶園整備、気象災害防止などの秋冬期の栽培管理と、手揉み茶や仕上げ加工、ブレンドなど茶加工に加え、簡易な生長調査、病害虫診断、収穫物の調査を行う。また、これらの実習を通じて、生育管理、病害虫管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業について学ぶ。さらに、茶文化について学ぶため、茶道の実習を行う。</p> | | |
| 授業目的・目標 | <p>①チャの特徴や作型、摘採時期を理解し、説明できる。 ②茶製造の方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。</p> | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培暦の確認) | |
| | 2～5 | 農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、刈払機の安全講習) | |
| | 6～17 | 茶栽培 ・栽培管理：整枝、防除、施肥、茶園整備 ・調査方法：生育調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | |
| | 18～48 | 茶加工 ・茶加工施設での安全作業 ・製造：手揉み、仕上げ加工、手再製、一番茶・二番茶ブレンド ・評価：審査と淹れ方、近赤外分析 | |
| | 49～50 | 視察1(先端技術) | |
| | 51～54 | 茶道体験 | |
| | 55～58 | 視察2(マーケティングと販売) | |
| | 59～60 | 検証と改善 | |
| キーワード | 茶園管理、茶加工、先端技術、環境に配慮した茶栽培 | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ(茶)、茶栽培 | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。茶栽培を履修していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|---------------------------------------|--|--|-------------|
| 授業名 圃場実習Ⅰ(茶) Farm Practice I (Tea) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 中野敬之、外側正之 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 圃場 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | <p>チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受ける。特に、秋整枝は気象の推移や来年度の作業計画を考慮した上で実施する必要がある。本科目では、整枝や防除、施肥、茶園整備、気象災害防止などの秋冬期の栽培管理と、手揉み茶や仕上げ加工、ブレンドなど茶加工に加え、簡易な生長調査、病害虫診断、収穫物の調査を行う。また、これらの実習を通じて、生育管理、病害虫管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業について学ぶ。さらに、茶文化について学ぶため、茶道の実習を行う。</p> | | |
| 授業目的・目標 | <p>①チャの特徴や作型、摘採時期を理解し、説明できる。 ②茶製造の方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。</p> | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培暦の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(圃場と茶加工施設の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～12 | 茶栽培 ・栽培管理：整枝、防除、施肥、茶園整備 ・調査方法：生育調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 | |
| | 13～48 | 茶加工 ・製造：手揉み、仕上げ加工、手再製、一番茶・二番茶ブレンド ・評価：審査と淹れ方、近赤外分析 | |
| | 49～50 | 視察1(先端技術) | |
| | 51～54 | 茶道体験 | |
| | 55～58 | 視察2(マーケティングと販売) | |
| | 59～60 | 検証と改善 | |
| キーワード | 茶園管理、茶加工、先端技術、環境に配慮した茶栽培 | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ(茶)、茶栽培 | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。茶栽培を履修していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | | |
|---|---|---|-------------|--|
| 授業名 圃場実習Ⅰ(果樹) Farm Practice I (fruits) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 | |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 | |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 山家一哲、太田智 | |
| 授業時間 | 月曜日 1～2コマ 水曜日 1～2コマ | 教室 | 実習圃場 | |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | | |
| 授業概要 | 果樹では、ある年の木の生長や果実のならせかたは、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、果樹栽培の全般について理解するため、温州ミカンや中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツといった落葉果樹の秋～冬期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。 | | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 | | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | | |
| | 2～5 | 農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、刈払機の安全講習) | | |
| | 6～30 | 常緑果樹(温州ミカン、中晩柑) ・栽培管理：摘果、収穫、施肥、剪定 ・調査方法：生育調査、収穫調査、果実調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・貯蔵技術 | | |
| | 31～54 | 落葉果樹(ナシ、キウイフルーツ) ・栽培管理：収穫、施肥、剪定 ・調査方法：生育調査、収穫調査、果実調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・貯蔵技術 | | |
| | 55～56 | 視察1(環境保全型農業) | | |
| | 57～58 | 視察2(先端の貯蔵技術) | | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | | |
| キーワード | 温州ミカン、中晩柑、ナシ、キウイフルーツ、摘果、収穫、剪定、先端技術、環境に配慮した果樹栽培 | | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ(果樹)、果樹栽培 | | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。果樹栽培を履修していること。 | | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。常に、安全な作業を心がけること。 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|-------------|--|
| 授業名 圃場実習Ⅰ(果樹) Farm Practice I (fruits) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 | |
| | | 履修年次 | 1年 秋・冬期 | |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 山家一哲、太田智 | |
| 授業時間 | 月曜日 1～2コマ 水曜日 1～2コマ | 教室 | 圃場 | |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | | |
| 授業概要 | 果樹では、ある年の木の生長や果実のならせかたは、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、果樹栽培の全般について理解するため、温州ミカンや中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツといった落葉果樹の秋～冬期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。 | | | |
| 授業目的・目標 | ①栽培品目毎に特徴や作型を理解し、説明できる。 ②栽培品目毎の栽培方法を理解し、説明できる。 ③環境に配慮した栽培について理解し、説明できる。 | | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | | |
| | 1 | ガイダンス(栽培計画、栽培品目、栽培暦の確認) | | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(圃場内の危険箇所と危険作業の確認) | | |
| | 3～28 | 常緑果樹(温州ミカン、中晩柑) ・栽培管理：摘果、収穫、施肥、剪定 ・調査方法：生育調査、収穫調査、果実調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・貯蔵技術 | | |
| | 29～54 | 落葉果樹(ナシ、キウイフルーツ) ・栽培管理：収穫、施肥、剪定 ・調査方法：生育調査、収穫調査、果実調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断 ・貯蔵技術 | | |
| | 55～56 | 視察1(環境保全型農業) | | |
| | 57～58 | 視察2(先端の貯蔵技術) | | |
| | 59～60 | 栽培後の検証と改善 | | |
| キーワード | 温州ミカン、中晩柑、ナシ、キウイフルーツ、摘果、収穫、剪定、先端技術、環境に配慮した果樹栽培 | | | |
| 教科書・参考書 | 適宜、資料を配布する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | | |
| 関連科目 | 総合実習、圃場実習Ⅱ(果樹)、果樹栽培 | | | |
| 履修要件 | 栽培コースを選択していること。 | | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|---------------|
| 授業名 圃場実習 I (畜産) Farm Practice I (Animal Husbandry) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 2年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 瀬戸隆弘、青山東一、貞弘恵 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 実習圃場等 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を發揮させることである。本科目では、育成牛の飼養管理や肉用鶏の飼養管理の実習や、牛・豚・鶏の簡易な調査を通じて、飼料、家畜飼養、家畜衛生の基礎を学ぶ。また、畜糞を使った堆肥製造と利用方法、食肉処理施設や畜産物の加工施設、スマート畜産の事例を視察する。 | | |
| 授業目的・目標 | ①家畜の生理学的特徴・習性について理解し、説明できる。 ②基本的な飼養管理技術を理解し、説明できる。 ③堆肥の製造方法について理解し、説明できる。 ④スマート畜産を可能にする技術について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(計画の確認) | |
| | 2～5 | 農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、刈払機の安全講習) | |
| | 6～14 | 育成牛の飼養管理 (給餌、給水、運動、清掃、衛生管理、個体識別、生理学的特徴、糞便の観察、習性、牛の保定、頭絡のかけ方、外貌所見、測尺(体高・胸幅・胸深・尻長)、心拍数・検温・呼吸数の測定法等) | |
| | 15～16 | 乳製品加工実習 | |
| | 17～18 | 乳質検査 | |
| | 19～22 | 牛生殖器解剖実習 | |
| | 23～24 | 食肉処理場見学 | |
| | 25～30 | 肉用鶏の飼育管理 (給餌、給水、清掃、衛生管理、生理学的特徴、糞便の観察、習性、鶏の保定、放飼場での管理、体重測定等) | |
| | 31～34 | 鶏解剖実習 | |
| | 35～36 | 鶏卵卵質調査 | |
| | 37～40 | 豚解剖実習 | |
| | 41～44 | 食肉製品加工実習 | |
| | 45～48 | 畜産加工・販売施設視察 | |
| | 49～54 | 堆肥製造(水分調整、温度管理、繰り返し作業等) | |
| | 55～56 | 堆肥品質評価(腐熟度判定:発芽試験法) | |
| | 57～58 | スマート畜産の事例見学 | |
| | 59～60 | 検証と改善 | |
| キーワード | 飼養管理、家畜一般管理、生殖器、食肉加工、堆肥、畜産経営、先端技術、環境に配慮した畜産 | | |
| 教科書・参考書 | 必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 飼料総論、家畜飼養、家畜育種繁殖、家畜生理解剖、畜産環境・堆肥利用論、家畜衛生、圃場実習Ⅱ(中小家畜)、圃場実習Ⅱ(大家畜) | | |
| 履修要件 | 畜産コースを選択していること。 | | |
| 備考 | 必要に応じて校外で実習を行う。 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|---|--|--|---------------|
| 授業名 圃場実習 I (畜産) Farm Practice I (Animal Husbandry) | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 2年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 瀬戸隆弘、青山東一、貞弘恵 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 圃場等 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を發揮させることである。本科目では、育成牛の飼養管理や肉用鶏の飼養管理の実習や、牛・豚・鶏の簡易な調査を通じて、飼料、家畜飼養、家畜衛生の基礎を学ぶ。また、畜糞を使った堆肥製造と利用方法、食肉処理施設や畜産物の加工施設、スマート畜産の事例を視察する。 | | |
| 授業目的・目標 | ①家畜の生理学的特徴・習性について理解し、説明できる。 ②基本的な飼養管理技術を理解し、説明できる。 ③堆肥の製造方法について理解し、説明できる。 ④スマート畜産を可能にする技術について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(計画の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(圃場内の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～12 | 育成牛の飼養管理 (給餌、給水、運動、清掃、衛生管理、個体識別、生理学的特徴、糞便の観察、習性、牛の保定、頭絡のかけ方、外貌所見、測尺(体高・胸幅・胸深・尻長)、心拍数・検温・呼吸数の測定法等) | |
| | 13～14 | 乳製品加工実習 | |
| | 15～16 | 乳質検査 | |
| | 17～20 | 牛生殖器解剖実習 | |
| | 21～24 | 食肉処理場見学 | |
| | 25～30 | 肉用鶏の飼育管理 (給餌、給水、清掃、衛生管理、生理学的特徴、糞便の観察、習性、鶏の保定、放飼場での管理、体重測定等) | |
| | 31～34 | 鶏解剖実習 | |
| | 35～36 | 鶏卵卵質調査 | |
| | 37～40 | 豚解剖実習 | |
| | 41～44 | 食肉製品加工実習 | |
| | 45～48 | 畜産加工・販売施設視察 | |
| | 49～54 | 堆肥製造(水分調整、温度管理、繰り返し作業等) | |
| | 55～56 | 堆肥品質評価(腐熟度判定:発芽試験法) | |
| | 57～58 | スマート畜産の事例見学 | |
| | 59～60 | 検証と改善 | |
| キーワード | 飼養管理、家畜一般管理、生殖器、食肉加工、堆肥、畜産経営、先端技術、環境に配慮した畜産 | | |
| 教科書・参考書 | 必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 飼料総論、家畜飼養、家畜育種繁殖、家畜生理解剖、畜産環境・堆肥利用論、家畜衛生、圃場実習Ⅱ(中小家畜)、圃場実習Ⅱ(大家畜) | | |
| 履修要件 | 畜産コースを選択していること。 | | |
| 備考 | 必要に応じて校外で実習を行う。 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|-------------------------------------|--|--|-------------|
| 授業名 演習林実習 I Practice in Forest I | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 2年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 鵜飼一博、相蘇春菜 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 静岡県有林他 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて自由に応用する技術が必要である。本科目では、林業の全般について理解するため、チェーンソーを中心とした林業機械の安全使用や安全作業、森林調査、収穫技術、造林技術、森林保護技術、特用林産物の栽培、森林情報の利用について学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | ①チェーンソーの安全使用方法について理解し、説明できる。 ②森林調査の方法について理解し、説明できる。 ③収穫技術について理解し、説明できる。 ④きのご類の栽培方法について理解し、説明できる。 ⑤環境に配慮した持続的な林業について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(作業計画の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(演習林の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～4 | 林業機械① 労働災害と労働安全 | |
| | 5～8 | 林業機械② 刈払い機の基本操作と整備方法 | |
| | 9～12 | 林業機械③ チェーンソーの基本操作と整備方法 | |
| | 13～22 | 森林調査 ・調査準備:目的、調査項目、調査方法、調査コース、データ確認、野帳の準備 ・現地調査:面積、地況、林況、測樹 ・調査結果のまとめ | |
| | 23～40 | 収穫技術 ・伐採方法:チェーンソーを使った伐木 ・伐出技術 ・造材作業の基本技術(枝払い、玉切り等) | |
| | 41～50 | 造林技術 ・枝打ち ・間伐 | |
| | 50～54 | 特用林産 ・原木採取 ・植菌 ・野生きのこの調査 | |
| 55～58 | 森林情報 ・航空写真の利用 ・森林GIS | | |
| 59～60 | 検証と改善 | | |
| キーワード | 育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産、先端技術、環境に配慮した林業 | | |
| 教科書・参考書 | ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)、造林学(朝倉書店)、失敗しないさし木つぎ木とり木(西東社)、葉っぱでおぼえる樹木1.2(柏書房)、最新シイタケの作り方(農文協)、安全な刈払い機作業のポイント、チェーンソー作業の安全ナビ、林業架線作業主任者テキスト、絵とき測量(オーム社) | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、演習林実習Ⅱ、森林計画学、造林学、森林土木論(治山・林道)、木材生産システム、森林マネジメント | | |
| 履修要件 | 林業コースを選択していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | |

| | | | |
|-------------------------------------|--|--|-------------|
| 授業名 演習林実習 I Practice in Forest I | | 単位数 4単位 | 授業の方法 実験・実習 |
| | | 履修年次 | 2年 秋・冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 鵜飼一博、相蘇春菜 |
| 授業時間 | 月曜日 1～2時限 水曜日 1～2時限 | 教室 | 演習林他 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて自由に応用する技術を身が必要である。本科目では、林業の全般について理解するため、チェーンソーを中心とした林業機械の安全使用や安全作業、森林調査、収穫技術、造林技術、森林保護技術、特用林産物の栽培、森林情報の利用について学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | ①チェーンソーの安全使用方法について理解し、説明できる。 ②森林調査の方法について理解し、説明できる。 ③収穫技術について理解し、説明できる。 ④きのこ類の栽培方法について理解し、説明できる。 ⑤環境に配慮した持続的な林業について理解し、説明できる。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(作業計画の確認) | |
| | 2 | 安全作業のための注意点(演習林の危険箇所と危険作業の確認) | |
| | 3～12 | 林業機械 ・労働災害と労働安全 ・刈払い機の基本操作と整備方法 ・チェーンソーの基本操作と整備方法 | |
| | 13～22 | 森林調査 ・調査準備:目的、調査項目、調査方法、調査コース、データ確認、野帳の準備 ・現地調査:面積、地況、林況、測樹 ・調査結果のまとめ | |
| | 23～40 | 収穫技術 ・伐採方法:チェーンソーを使った伐木 ・伐出技術 ・造材作業の基本技術(枝払い、玉切り等) | |
| | 41～50 | 造林技術 ・枝打ち ・間伐 | |
| | 50～54 | 特用林産 ・原木採取 ・植菌 ・野生きのこの調査 | |
| | 55～58 | 森林情報 ・航空写真の利用 ・森林GIS | |
| | 59～60 | 検証と改善 | |
| キーワード | 育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産、先端技術、環境に配慮した林業 | | |
| 教科書・参考書 | ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)、造林学(朝倉書店)、失敗しないさし木つぎ木とり木(西東社)、葉っぱでおぼえる樹木1.2(柏書房)、最新シイタケの作り方(農文協)、安全な刈払い機作業のポイント、チェーンソー作業の安全ナビ、林業架線作業主任者テキスト、絵とき測量(オーム社) | | |
| 評価方法・評価基準 | レポート(50%)、履修態度(50%) | | |
| 関連科目 | 総合実習、演習林実習Ⅱ、森林計画学、造林学、森林土木論(治山・林道)、木材生産システム、森林マネジメント | | |
| 履修要件 | 林業コースを選択していること。 | | |
| 備考 | 実習中は、危険な作業もあるため、必ず教員の指示に従うこと。 常に、安全な作業を心がけること。 | | |

(是正事項) 生産科学科

7. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職短期大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

みなし専任教員2人のうち1人を兼任教員に改め、配置する。

(詳細説明)

みなし専任教員を2人配置する計画で申請したところ、専門職短期大学設置基準より配置できるみなし専任教員は1人までであったため、2人のうち1人を兼任教員とする。

具体的には、中小家畜については、実習対象の家畜（豚又は鶏のいずれか）以外の畜種と接触があった場合、防疫上の観点から、実習対象の家畜と接触するためには、決められた日数を空けなければならないという制約があることから、実習にあたり、より配慮が必要となる。このため、圃場実習Ⅱ（中小家畜）を担当する教員をみなし専任教員とし、圃場実習Ⅱ（大家畜）を担当する教員を兼任教員とする。

(新旧対照表) 基本計画書 教員組織の概要 (2ページ)

・【新】

| | 学 部 等 の 名 称 | 専任教員等 | | | | | | 兼任 教員等 | |
|---------|-------------|-------|----------|----------|------------------|----------|-------------------|-----------|-------------------|
| | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 助手 | | |
| 教員組織の概要 | 新設分 | 生産科学科 | 6 (6) | 5 (5) | <u>10</u> (9) | - (-) | <u>21</u> (20) | - (-) | <u>28</u> (23) |
| | | 計 | 6 (6) | 5 (5) | <u>10</u> (9) | - (-) | <u>21</u> (20) | - (-) | <u>28</u> (23) |
| | 既設分 | 該当なし | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) |
| | | 計 | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) |
| | 合 計 | | 6 (6) | 5 (5) | <u>10</u> (9) | - (-) | <u>21</u> (20) | - (-) | <u>28</u> (23) |

・【旧】

| 教員組織の概要 | 学 部 等 の 名 称 | | 専任教員等 | | | | | 兼任 教員等 | |
|---------|-------------|---|----------|----------|------------------|----------|-------------------|-----------|-------------------|
| | | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | | 助手 |
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | | |
| 新設分 | 生産科学科 | | 6 (6) | 5 (5) | <u>11</u> (9) | - (-) | <u>22</u> (20) | - (-) | <u>27</u> (23) |
| | 計 | | 6 (6) | 5 (5) | <u>11</u> (9) | - (-) | <u>22</u> (20) | - (-) | <u>27</u> (23) |
| 既設分 | 該当なし | | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) |
| | 計 | | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) |
| 合 計 | | | 6 (6) | 5 (5) | <u>11</u> (9) | - (-) | <u>22</u> (20) | - (-) | <u>27</u> (23) |

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (2ページ)

・【新】

| 教育課程等の概要 (生産科学科) | | | | | | | |
|---------------------|----------|-----|----|----|----|----|----|
| 授業科目の名称 | 専任教員等の配置 | | | | | 備考 | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 圃場実習Ⅱ (大家畜) | 2 | 1 | 2 | | | 兼4 | 共同 |

・【旧】

| 教育課程等の概要 (生産科学科) | | | | | | | |
|---------------------|----------|-----|----|----|----|----|----|
| 授業科目の名称 | 専任教員等の配置 | | | | | 備考 | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 圃場実習Ⅱ (大家畜) | 2 | 1 | 2 | | | 兼3 | 共同 |

(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

5 教員組織の編成の考え方及び特色

・【新】 (30ページ)

<分野別・職位別の教員構成>

(単位：人)

| 区 分 | 栽 培 | | | 林 業 | | | 畜 産 | | |
|------|--------|-------------|--------|--------|-------------|--------|--------|-------------|----------|
| | 教 授 | 准 教 授 | 講 師 | 教 授 | 准 教 授 | 講 師 | 教 授 | 准 教 授 | 講 師 |
| 専任教員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 実務家 | 3 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | <u>2</u> |
| うち研究 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 合 計 | 3 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | <u>3</u> |

・【旧】(27ページ)

＜分野別・職位別の教員構成＞

(単位：人)

| 区 分 | 栽 培 | | | 林 業 | | | 畜 産 | | |
|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
| | 教 授 | 准 教授 | 講 師 | 教 授 | 准 教授 | 講 師 | 教 授 | 准 教授 | 講 師 |
| 専任教員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 実務家 | 3 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| うち研究 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 合 計 | 3 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 4 |

・【新】(31ページ)

＜専任教員の職位・年齢構成(平成32年4月1日現在)＞

(単位：人)

| 年 齢 | 30 歳代 | 40 歳代 | 50 歳代 | 60 歳以上 | 計 |
|-------------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 教授 | | | 1 | 5 | 6 |
| うち実務家(うち研究) | | | 1(1) | 4(3) | 5(4) |
| 准教授 | | 1 | 4 | | 5 |
| うち実務家(うち研究) | | 1 | 3 | | 4 |
| 講師 | 3 | 3 | 1 | 3 | 10 |
| うち実務家(うち研究) | 2 | 2(1) | 1 | 3 | 8(1) |
| 専任教員 合計 | 3 | 4 | 6 | 8 | 21 |
| うち実務家(うち研究) | 2 | 3(1) | 5(1) | 7(3) | 17(5) |

・【旧】(28ページ)

| 年 齢 | 30 歳代 | 40 歳代 | 50 歳代 | 60 歳以上 | 計 |
|-------------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 教授 | | | 1 | 5 | 6 |
| うち実務家(うち研究) | | | 1(1) | 4(3) | 5(4) |
| 准教授 | | 1 | 4 | | 5 |
| うち実務家(うち研究) | | 1 | 3 | | 4 |
| 講師 | 3 | 3 | 2 | 3 | 11 |
| うち実務家(うち研究) | 2 | 2(1) | 2 | 3 | 9(1) |
| 専任教員 合計 | 3 | 4 | 7 | 8 | 22 |
| うち実務家(うち研究) | 2 | 3(1) | 6(1) | 7(3) | 18(5) |

教育方法

| 新 | 旧 |
|--|--|
| (32 ページ) ①少人数教育の推進 本学の入学定員は各学年 100 名、2学年合計の収容定員は 200 名である。 収容定員 200 名に対して、専任教員が <u>21</u> 名(教員一人当たりの学生数は <u>9.5</u> 人)いることから、 | (29 ページ) ①少人数教育の推進 本学の入学定員は各学年 100 名、2学年合計の収容定員は 200 名である。 収容定員 200 名に対して、専任教員が <u>22</u> 名(教員一人当たりの学生数は <u>9.1</u> 人)いることから、 |

(新旧対照表) 教員名簿 別記様式第 3 号 (その 2 の 1)

・【新】(5 ページ)

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学とを兼務する教員については、月額基本給欄に () 書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を 7 : 3 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

また、みなし専任 1 人は、県研究機関の研究員を兼務しているため、教員と研究員の各業務への従事を 1 : 9 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

| 調書番号 | 専任等区分 | 職位 | 氏名 | 担当授業科目の名称 | 現職 (就任年月) |
|-----------|-----------|----|-------|------------|--|
| <u>21</u> | <u>実み</u> | 講師 | 齋藤 美英 | 圃場実習Ⅱ(大家畜) | 静岡県畜産技術研究所 研究統括監 (昭 62. 4) 静岡県畜産技術研究所 研究統括官 (昭 62. 4) |

・【旧】(3 ページ)

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学とを兼務する教員については、月額基本給欄に () 書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を 7 : 3 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

また、みなし専任 2 人は、県研究機関の研究員を兼務しているため、教員と研究員の各業務への従事を 1 : 9 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

| 調書番号 | 専任等区分 | 職位 | 氏名 | 担当授業科目の名称 | 現職 (就任年月) |
|----------|-----------|----|-------|------------|---------------------------------------|
| <u>⑥</u> | <u>兼任</u> | 講師 | 齋藤 美英 | 圃場実習Ⅱ(大家畜) | 静岡県畜産技術研究所 研究統括官兼酪農科長 (昭 62. 4) |

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況 別記様式第3号 (その3の1)

・【新】

| 専任教員の年齢構成・学位保有状況 | | | | | | | | | | |
|------------------|----|-------|--------|--------|--------|-----------|--------|-------|-----------|----|
| 職位 | 学位 | 29歳以下 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70歳以上 | 合計 | 備考 |
| 講師 | 修士 | | | 2人 | | <u>1人</u> | | | <u>3人</u> | |
| 合計 | 修士 | | | 2人 | 1人 | <u>2人</u> | | | <u>5人</u> | |

・【旧】

| 専任教員の年齢構成・学位保有状況 | | | | | | | | | | |
|------------------|----|-------|--------|--------|--------|-----------|--------|-------|-----------|----|
| 職位 | 学位 | 29歳以下 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70歳以上 | 合計 | 備考 |
| 講師 | 修士 | | | 2人 | | <u>2人</u> | | | <u>4人</u> | |
| 合計 | 修士 | | | 2人 | 1人 | <u>3人</u> | | | <u>6人</u> | |

(新旧対照表)

専任教員の年齢構成・学位保有状況

(専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員)

別記様式第3号 (その3の2)

・【新】

| 専任教員の年齢構成・学位保有状況 (専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員) | | | | | | | | | | |
|--|----|-------|--------|--------|--------|-----------|--------|-------|-----------|----|
| 職位 | 学位 | 29歳以下 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70歳以上 | 合計 | 備考 |
| 講師 | 修士 | | | 1人 | | <u>1人</u> | | | <u>2人</u> | |
| 合計 | 修士 | | | 1人 | 1人 | <u>2人</u> | | | <u>4人</u> | |

・【旧】

| 専任教員の年齢構成・学位保有状況 (専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員) | | | | | | | | | | |
|--|----|-------|--------|--------|--------|-----------|--------|-------|-----------|----|
| 職位 | 学位 | 29歳以下 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70歳以上 | 合計 | 備考 |
| 講師 | 修士 | | | 1人 | | <u>2人</u> | | | <u>3人</u> | |
| 合計 | 修士 | | | 1人 | 1人 | <u>3人</u> | | | <u>5人</u> | |

(改善事項) 生産科学科

8. <書類不備>

申請書類に誤記や言葉の不一致があるため、再度確認を行うこと。

(対応)

この度の御意見を踏まえ、申請書類の誤記や言葉の不一致について点検した結果、「教育課程等の概要」「授業科目の概要」「シラバス」「学則」「教授会規程」「設置の趣旨を記載した書類」「教育課程連携協議会規則」の誤記や不一致等があったため、下記の通り修正する。

(詳細説明)

1 基本計画書

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 基本計画書

| 新 | 旧 |
|---|--|
| (2ページ) ・校地等 【備考】 平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と共用 ・校舎 【備考】 平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と共用 | (2ページ) ・校地等 【備考】 平成 <u>32</u> 年度は静岡県立農林大学校と共用 ・校舎 【備考】 平成 <u>32</u> 年度は静岡県立農林大学校と共用 |
| (3ページ) ・既設大学等の状況 【備考】 ※平成 <u>33</u> 年度より学生募集停止(研究部) ・附属施設の概要 【演習林】 名 称：静岡県有林 所在地：浜松市 規模等：森林面積 <u>294</u> ha | (3ページ) ・既設大学等の状況 【備考】 ※平成 <u>32</u> 年度より学生募集停止(研究部) ・附属施設の概要 【演習林】 名 称：静岡県有林 所在地：浜松市ほか 規模等：森林面積約 <u>280</u> ha |

2 教育課程等の概要

| 新 | 旧 |
|---|---|
| (2ページ) 総合実習 備考：オムニバス方式・共同 <u>(一部)</u> | (2ページ) 総合実習 備考：オムニバス方式・共同 |
| (2ページ) 圃場実習Ⅱ（大家畜） 備考：兼4 | (2ページ) 圃場実習Ⅱ（大家畜） 備考：兼3 |
| (2ページ) 圃場実習Ⅱ（中小家畜） 専任教員等の配置：講師3 | (2ページ) 圃場実習Ⅱ（中小家畜） 専任教員等の配置：講師2 |
| (2ページ) マーケティング・販売演習 備考：オムニバス方式・共同 <u>(一部)</u> | (2ページ) マーケティング・販売演習 備考：オムニバス方式・共同 |

3 授業科目の概要

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 授業科目の概要

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>(1 ページ)</p> <p>コミュニケーション論</p> <p>備考：集中</p> | <p>(1 ページ)</p> <p>コミュニケーション論</p> <p>備考：(追加)</p> |
| <p>(3 ページ)</p> <p>県内農林業事情</p> <p>(② 稲葉善太郎/2回) 花きの先進経営体の現状</p> | <p>(3 ページ)</p> <p>県内農林業事情</p> <p>([16] 稲葉善太郎/2回) 花卉の先進経営体の現状</p> |
| <p>(6 ページ)</p> <p>森林生態学</p> <p>近年、森林生態系機能の持続性が求められるようになり、森林資源利用の生物多様性への影響等に対する配慮が求められている。このため、森林景観が環境とどのような関係をもつて成立しているかを学ぶとともに、生態系を構成する要素、生命を支える一次生産の仕組、有機物の分解など森林の物質循環を維持する仕組を学ぶ。また、近年問題となっている鳥獣被害、松くい虫被害について、現状と対策など森林保護に関する知識を学ぶ。</p> | <p>(6 ページ)</p> <p>森林生態学</p> <p>近年、森林生態系機能の持続性が求められるようになり、森林資源利用の生物多様性への影響等に対する配慮が求められている。このため、森林景観が環境とどのような関係をもつて成立しているかを学ぶとともに、生態系を構成する要素、生命を支える一次生産の仕組、有機物の分解など森林の物質循環を維持する仕組を学ぶ。また、近年問題となっている鳥獣被害、松くい虫対被害について、現状と対策など森林保護に関する知識を学ぶ。</p> |
| <p>(8 ページ)</p> <p>総合実習</p> <p>備考：オムニバス方式・共同 <u>(一部)</u></p> | <p>(8 ページ)</p> <p>総合実習</p> <p>備考：オムニバス方式・共同</p> |
| <p>(10 ページ)</p> <p>圃場実習Ⅱ (中小家畜)</p> <p>家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水、除糞清掃、ワクチネーションなどの採</p> | <p>(10 ページ)</p> <p>圃場実習Ⅱ (中小家畜)</p> <p>家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水、除糞清掃、ワクチネーションなどの採</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>卵鶏や肉用鶏の飼養管理、肥育や保育など繁殖豚の飼養管理、子豚・肥育豚の飼養管理について実習を通じて学び、中小家畜に関する実践的な飼養管理技術を習得する。また、養豚や養鶏、家畜ふん尿に関する調査手法を学ぶ。さらに、先端技術の利用や、環境に配慮した畜産経営について学ぶ。</p> | <p>卵鶏や肉用鶏の使用管理、肥育や保育など繁殖豚の飼養管理、子豚・肥育豚の飼養管理について実習を通じて学び、中小家畜に関する実践的な飼養管理技術を習得する。また、養豚や養鶏、家畜ふん尿に関する調査手法を学ぶ。さらに、先端技術の利用や、環境に配慮した畜産経営について学ぶ。</p> |
| <p>(10 ページ) G A P 演習 備考：オムニバス方式</p> | <p>(10 ページ) G A P 演習 備考：<u>(追加)</u></p> |
| <p>(11 ページ) マーケティング・販売演習 備考：オムニバス方式・共同<u>(一部)</u></p> | <p>(11 ページ) マーケティング・販売演習 備考：オムニバス方式・共同</p> |

5 シラバス

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) シラバス

| 新 | 旧 |
|--|--|
| (1ページ) 静岡学 授業目的・目標 講話をもとに行うディスカッションを通じ、今後の静岡県のものづくりのあり方や発展に向け、生産現場は何が出来るかという視点で考える。 | (1ページ) 静岡学 授業目的・目標 講和をもとに行うディスカッションを通じ、今後の静岡県のものづくりのあり方や発展に向け、生産現場は何が出来るかという視点で考える。 |
| (17ページ) 環境保全型農業論 【別紙1-1】 | (18ページ) 環境保全型農業論 【別紙1-2】 |
| (21ページ) 植物遺伝育種学概論 【別紙2-1】 | (10ページ) 植物遺伝育種学概論 【別紙2-2】 |
| (30ページ) 総合実習 教室：実習圃場等 | (31ページ) 総合実習 教室：圃場等 |
| (31ページ) 圃場実習 I (野菜) 教室：実習圃場 | (32ページ) 圃場実習 I (野菜) 教室：圃場 |
| (32ページ) 圃場実習 I (花き) 教室：実習圃場 | (33ページ) 圃場実習 I (花き) 教室：圃場 |
| (33ページ) 圃場実習 I (茶) 教室：実習圃場 | (34ページ) 圃場実習 I (茶) 教室：圃場 |
| (34ページ) 圃場実習 I (果樹) 教室：実習圃場 | (35ページ) 圃場実習 I (果樹) 教室：圃場 |
| (35ページ) 圃場実習 I (畜産) 教室：実習圃場等 | (36ページ) 圃場実習 I (畜産) 教室：圃場等 |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| (36ページ) 演習林実習 I 教室： <u>静岡県演習林他</u> | (37ページ) 演習林実習 I 教室：演習林他 |
| (37ページ) 圃場実習 II（野菜） 教室： <u>実習圃場</u> | (38ページ) 圃場実習 II（野菜） 教室：圃場 |
| (38ページ) 圃場実習 II（花き） 教室： <u>実習圃場</u> | (39ページ) 圃場実習 II（花き） 教室：圃場 |
| (39ページ) 圃場実習 II（茶） 教室： <u>実習圃場</u> 茶業研究センター圃場 | (40ページ) 圃場実習 II（茶） 教室：茶業研究センター圃場 |
| (40ページ) 圃場実習 II（果樹） 教室： <u>実習圃場</u> 果樹研究センター圃場 | (41ページ) 圃場実習 II（果樹） 教室： <u>校内圃場</u> 果樹研究センター圃場 |
| (41ページ) 圃場実習 II（大家畜） 教員：小林信一、瀬戸隆弘、渡邊貴之、 <u>青山東一</u> 、片山信也、齋藤美英、祐森誠司、大塚誠、貞弘恵 教室： <u>畜産技術研究所本所圃場</u> | (42ページ) 圃場実習 II（大家畜） 教員：小林信一、瀬戸隆弘、渡邊貴之、片山信也、齋藤美英、祐森誠司、大塚誠、貞弘恵 教室： <u>畜産技術研究所圃場</u> |
| (42ページ) 圃場実習 II（中小家畜） 教員：小林信一、瀬戸隆弘、渡邊貴之、 <u>青山東一</u> 、片山信也、齋藤美英、祐森誠司、大塚誠、貞弘恵 教室： <u>中小家畜センター圃場</u> | (43ページ) 圃場実習 II（中小家畜） 教員：小林信一、瀬戸隆弘、渡邊貴之、片山信也、齋藤美英、祐森誠司、大塚誠、貞弘恵 教室： <u>中小家畜研究センター圃場</u> |
| (43ページ) 演習林実習 II 教室： <u>静岡県有林他</u> | (44ページ) 演習林実習 II 教室：演習林他 |

6 専門職大学等における実験，実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧

(新旧対照表) 専門職大学等における実験，実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧

| 新 | 旧 |
|--|--|
| 科目区分：総合実習 授業科目の名称：プロジェクト研究 単位数：必修 <u>2</u> | 科目区分：総合実習 授業科目の名称：プロジェクト研究 単位数：必修 <u>4</u> |

9 設置の趣旨等を記載した書類
誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

| 新 | 旧 |
|--|--|
| (目次) 16 教育内容等の改善を図るための組織的な <u>取組</u> ・・・・・・・・・・63 | (目次) 16 教育内容等の改善を図るための組織的な <u>研修等</u> ・・・・・・・・・・62 |
| (1 ページ) 静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として <u>農事練習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農業技術員養成所、農業講習所、各試験場併設専門研修所、農業中央研修所、林業講習所、農業短期大学、林業短期大学、農林短期大学、農林短期大学校</u> などそれぞれの時代に対応し、(略) 現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の約 8 割が (略) | (1 ページ) 静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として <u>農事見習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農会技術員養成所、農業講習所、農業中央専門研修所、農業短期大学校、農林短期大学校</u> などそれぞれの時代に対応し、(略) 現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の <u>8 割以上</u> が (略) |
| (2 ページ) このような変化に対応していくため、本県 | (2 ページ) このような変化に対応していくため、本県 |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン2018～2021（農業・農村編）（資料6-1）では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>涵養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2014</u>年には2,204億円だった農業産出額を2021年には2,400億円まで伸ばし、（略）</p> | <p>総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン2018～2021（農業・農村編）（資料6）では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>かん養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2015</u>年には2,204億円だった農業産出額を2021年には2,400億円まで伸ばし、（略）</p> |
| <p>（3ページ） また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン2018～2021（<u>森林・林業編</u>）』（資料7）では（略）</p> | <p>（3ページ） また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン2018～2021（<u>農業・農村編</u>）』（資料7）では（略）</p> |
| <p>（4ページ） 併せて、現在、静岡県立農林大学校への進学者の多い県内高校の3年生に対するアンケート（資料10）を実施し、現在の静岡県立農林大学校への進学希望や、農業分野で学びたい内容について調査した。静岡県立農林大学校を進学先として検討している学生は、<u>農業分野</u>で役立つ技術・技能が身に付くこと、<u>就農</u>に有利であることを重視している。また、<u>農学</u>分野で学びたい内容は、（略）</p> | <p>（4ページ） 併せて、現在静岡県立農林大学校への進学者の多い県内高校の3年生に対するアンケート（資料10）を実施し、現在の静岡県立農林大学校への進学希望や、農業分野で学びたい内容について調査した。静岡県立農林大学校を進学先として検討している学生は、<u>農林業</u>分野で役立つ技術・技能が身に付くこと、<u>農林業関係の就職</u>に有利であることを重視している。また、<u>農林業</u>で学びたい分野は、（略）</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成 30 年 2 月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料 11-2)。</p> | <p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成 30 年 2 月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料 11)。</p> |
| <p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編)』(資料 6-1)においては、(略)</p> | <p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編)』(資料 6)においては、(略)</p> |
| <p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国 3 位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p> | <p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国 4 位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p> |
| <p>(8 ページ)</p> <p>そこで、これらの人材を養成するために、2 年制の教育課程としてこれまで既設の静岡県立農林大学校養成部で行ってきた生産知識・技術を身につける実践的教育のレベルアップを図るとともに、</p> | <p>(8 ページ)</p> <p>そこで、これらの人材を養成するために、2 年制の教育課程としてこれまで静岡県立農林大学校養成部で行ってきた生産知識・技術を身につける実践的教育のレベルアップを図るとともに、</p> |
| <p>(11 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計 2 ヶ月程度、県内農林業経営体において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>(11 ページ)</p> <p>④農林業事業体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計 2 ヶ月程度、県内農林業事業体において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |
| <p>(12 ページ)</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の 4 つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。</p> <p>なお、比較のための参考資料として、本学のカリキュラム・マップを資料 20-1、既設の</p> | <p>(12 ページ)</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の 4 つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。</p> <p>なお、比較のための参考資料として、本学のカリキュラムマップを資料 20-1、農林大学</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| 農林大学校の <u>カリキュラム・マップ</u> を資料 20-2 に示す。 | 校の <u>カリキュラムマップ</u> を資料 20-2 に示す。 |
| (14 ページ) なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職大学の <u>カリキュラム・マップ</u> を資料 20-3 に示す。 | (14 ページ) なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職大学の <u>カリキュラムマップ</u> を資料 20-3 に示す。 |
| (15 ページ) 既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである（資料 17）。現代の農学が <u>食料</u> 生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、 <u>農林業</u> を切り口とした（略）。 | (15 ページ) 既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである（資料 17）。現代の農学が <u>食糧</u> 生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、 <u>農業</u> を切り口とした（略）。 |
| (16 ページ) 政府が平成 30 年 5 月に決定した食料・農業・農村の動向（資料 <u>18-1</u> ）では、（略） | (16 ページ) 政府が平成 30 年 5 月に決定した食料・農業・農村の動向（資料 <u>18</u> ）では、（略） |
| (16 ページ) 森林及び林業の動向（資料 <u>19</u> ）では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとされている。 | (16 ページ) 森林及び林業の動向（資料 <u>20</u> ）では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとされている。 |
| (17 ページ) しかし経営体の <u>約 8 割</u> （127 経営体）が事業の拡大・強化を考えており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、（略） | (17 ページ) しかし経営体の <u>8 割以上</u> （127 経営体）が事業の拡大・強化を考えており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、 |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| | (略) |
| <p>(17 ページ)</p> <p>なお、本県が平成 30 年 7 月～8 月に県内外の農林業法人や関連企業を対象として実施した「静岡県立農林環境専門職大学(仮称)及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」(「<u>学生確保の見通し等を記載した書類</u>」資料 23)において、本学科の卒業生について、回答のあった 526 <u>法人等</u>中 124 法人等が「採用したい」、218 <u>法人等</u>が「採用を検討したい」と回答している。</p> | <p>(17 ページ)</p> <p>なお、本県が平成 30 年 7 月～8 月に県内外の農林業法人や関連企業を対象として実施した「静岡県立農林環境専門職大学(仮称)及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」(「<u>学生確保の見通し</u>」資料 24)において、本学科の卒業生について、回答のあった 526 <u>件</u>中 124 法人等が「採用したい」、218 <u>件</u>が「採用を検討したい」と回答している。</p> |
| <p>(23 ページ)</p> <p>共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、<u>栽培コース、林業コース、畜産コースの 3 コース</u>を設け、(略)</p> | <p>(23 ページ)</p> <p>共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、<u>栽培コース、林業コースの 3 コース</u>を設け、(略)</p> |
| <p>(23 ページ)</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、(略)、環境保全型農業について学ぶ「<u>環境保全型農業論</u>」、(略)。</p> | <p>(23 ページ)</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、(略)、環境保全型農業について学ぶ「<u>環境保全型農業</u>」、(略)。</p> |
| <p>(24 ページ)</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>(略)、家畜の体の構造について学ぶ「<u>家畜生理解剖</u>」、<u>家畜の育種や繁殖の基礎について学ぶ</u>「<u>家畜育種繁殖</u>」、衛生管理について学ぶ「<u>家畜衛生学</u>」、環境に配慮した畜産や<u>堆肥の利用</u>について学ぶ「<u>畜産環境・堆肥利用論</u>」をコース必修科目として配置する。なお、「畜産環境・堆肥利用論」の授業の中で環境保全について、また、「家畜飼養」で畜産分野の先端技術について学ぶ。</p> | <p>(24 ページ)</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>(略)、家畜の体の構造について学ぶ「<u>家畜生理解剖</u>」、「<u>家畜育種繁殖</u>」、衛生管理について学ぶ「<u>家畜衛生学</u>」、<u>環境に配慮した畜産について学ぶ</u>「<u>畜産環境・堆肥利用論</u>」をコース必修科目として配置する。なお、「畜産環境・堆肥利用論」の授業の中で環境保全について、また、「家畜飼養」で畜産分野の先端技術について学ぶ。</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>(26 ページ)</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>(略)、食品加工の知識と技術を学ぶ「食品加工演習」、<u>フードシステム的な観点から食料問題を考える</u>「アグリフードシステム論」、食品の<u>流通や加工</u>について学ぶ「流通加工論」を選択科目として配置する。</p> | <p>(26 ページ)</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>(略)、食品加工の知識と技術を学ぶ「食品加工演習」、<u>フードシステムとフードシステム的な観点から食料問題を考える</u>「アグリフードシステム論」、食品の<u>流通システム</u>について学ぶ「流通加工論」を選択科目として配置する。</p> |
| <p>ウ 畜産コース</p> <p>(略)、食品加工の知識と技術を学ぶ「食品加工演習」、<u>フードシステム的な観点から食料問題を考える</u>「アグリフードシステム論」、食品の<u>流通や加工</u>について学ぶ「流通加工論」、畜産経営で重要な飼養管理に加え、家畜福祉等について学ぶ「畜産経営演習（大家畜）」、「畜産経営演習（中小家畜）」を選択科目として配置する。</p> | <p>ウ 畜産コース</p> <p>(略)、食品加工の知識と技術を学ぶ「食品加工演習」、<u>フードシステムとフードシステム的な観点から食料問題を考える</u>「アグリフードシステム論」、食品の<u>流通システム</u>について学ぶ「流通加工論」、畜産経営で重要な飼養管理に加え、家畜福祉等について学ぶ「畜産経営演習（大家畜）」、「畜産経営演習（中小家畜）」を選択科目として配置する。</p> |
| <p>(29 ページ)</p> <p>(略)、より細やかな指導が必要となる<u>作目別の圃場実習</u>や、(略)。</p> | <p>(29 ページ)</p> <p>(略)、より細やかな指導が必要となる<u>品目別の生産実習</u>や、(略)。</p> |
| <p>(29 ページ)</p> <p>生産技術に関する演習・実習は、学内等の圃場で行う実習を1年次および2年次に配置し、実践的な生産技術を学ぶ。1年次は、農林業全体を学ぶ実習を前半に、<u>作目別</u>に分かれて基礎的な技術を学ぶ実習を後半に配置する。</p> | <p>(29 ページ)</p> <p>生産技術に関する演習・実習は、学内等の圃場で行う実習を1年次および2年次に配置し、実践的な生産技術を学ぶ。1年次は、農林業全体を学ぶ実習を前半に、<u>種目別</u>に分かれて基礎的な技術を学ぶ実習を後半に配置する。</p> |
| <p>(30 ページ)</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内農林業経営体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> | <p>(30 ページ)</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し、実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、<u>県内農林業事業体</u>において実務に従事する実習科目を設ける。</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(30 ページ)</p> <p>また、栽培コースは、<u>作目毎</u>に専門的な技術を学修するため、実習部分は、「野菜」、「花き」、「茶」、「果樹」に、畜産コースは、圃場実習Ⅱで「大家畜」と「中小家畜」に分かれる。</p> | <p>(30 ページ)</p> <p>また、栽培コースは、<u>栽培品目毎</u>に専門的な技術を学修するため、実習部分は、「野菜」、「花き」、「茶」、「果樹」に、畜産コースは、圃場実習Ⅱで「大家畜」と「中小家畜」に分かれる。</p> |
| <p>(31 ページ)</p> <p>各授業科目の成績評価は、S(100点～<u>90点以上</u>)、A(90点未満～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、(略)</p> | <p>(31 ページ)</p> <p>各授業科目の成績評価は、S(100点～<u>90点</u>)、A(90点未満～80点以上)、B(80点未満～70点以上)、(略)</p> |
| <p>(35 ページ)</p> <p>(1) 本学キャンパスの整備方針</p> <p>本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。</p> <p>既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>33</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。</p> <p>その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。</p> <p>各校舎の整備は、平成 <u>33</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に視聴覚室や教室、実験室等の改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整え<u>るとともに、平成 32～33 年度に、エレベータの設置工事やC棟への図書館等の機能移転等に対応した改修工事を行う。</u>C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。</p> | <p>(35 ページ)</p> <p>(1) 本学キャンパスの整備方針</p> <p>本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。</p> <p>既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>32</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。</p> <p>その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。</p> <p>各校舎の整備は、平成 <u>32</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整える。C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(35 ページ)</p> <p>校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校（平成 32 年度から学生募集停止）の校地を活用する。</p> | <p>(35 ページ)</p> <p>校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校（平成 31 年度から学生募集停止）の校地を活用する。</p> |
| <p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 33 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p> | <p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 32 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p> |
| <p>(36 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室（A棟、C棟）のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p> | <p>(36 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室（A棟）のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p> |
| <p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 33 年度までは静岡県立農林大学校と校舎を共用する。</p> | <p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 32 年度は静岡県立農林大学校と校舎を共用する。</p> |
| <p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修場 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林 294ha を充てる（資料 26）。</p> | <p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林約 280ha を充てる（資料 26）。</p> |
| <p>(40 ページ)</p> <p>実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の</p> | <p>(40 ページ)</p> <p>実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、「<u>総合実習</u>」、「<u>圃場実習Ⅰ</u>」、「<u>演習林実習Ⅰ</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（野菜）（花き）</u>」といった実習用だけでなく、(略)</p> | <p>施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱといった<u>栽培実習用</u>だけでなく、(略)</p> |
| <p>(48～49 ページ)</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>農林業全般(水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「<u>圃場実習Ⅰ（野菜）（花き）</u>」(茶)(果樹)(畜産)、「<u>演習林実習Ⅰ</u>」については実習圃場で、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「<u>大型機械実習</u>」については機械研修場で実施する。</p> <p>実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習である「<u>圃場実習Ⅱ（野菜）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（花き）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（茶）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（果樹）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（畜産）</u>」、「<u>演習林実習Ⅱ</u>」については、<u>実習圃場及び県有施設</u>である農林技術研究所(本所)、同茶業研究センター、同果樹研究センター、同森林・林業研究センター、県有林で実施する(資料 26)。</p> <p>農林技術研究所、畜産技術研究所及び各センターで行う実習については、通常の栽培管理等の業務の一部を担う形で実施する。これらの県有施設は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノウハウが蓄積されていることから<u>本学の実習</u>についても支障なく実施できる。</p> <p>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、<u>本学が</u></p> | <p>(48～49 ページ)</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>農林業全般(水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ、「<u>圃場実習Ⅰ（野菜）</u>」、「<u>圃場実習Ⅰ（花き）</u>」、「<u>圃場実習Ⅰ（茶）</u>」、「<u>圃場実習Ⅰ（果樹）</u>」、「<u>圃場実習Ⅰ（畜産）</u>」、「<u>演習林実習Ⅰ</u>」については実習圃場で、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「<u>大型機械実習</u>」については機械研修場で実施する。</p> <p>実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新のいんち管理・調査スキルを習得するための実習である「<u>圃場実習Ⅱ（野菜）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（花き）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（茶）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（果樹）</u>」、「<u>圃場実習Ⅱ（畜産）</u>」、「<u>演習林実習Ⅱ</u>」については、<u>県有施設</u>である農林技術研究所(本所)、同茶業研究センター、同果樹研究センター、同森林・林業研究センター、県有林で実施する(資料 26)。</p> <p>農林技術研究所、畜産技術研究所及び各センターで行う実習については、通常の栽培管理等の業務の一部を担う形で実施する。これらの県有施設は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノウハウが蓄積されていることから、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習</u>についても支障なく実施できる。</p> |

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</p> <p>また、静岡県立農林環境専門職大学及び本学と、県有施設を所管する県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</p> <p>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と本学の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</p> | <p>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</p> <p>また、静岡県立農林環境専門職大学及び<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>と、県有施設を所管する県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</p> <p>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部</u>の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</p> |
| <p>(50 ページ)</p> <p>(2)臨地実務実習(資料 28 臨地実務実習要綱(案))</p> | <p>(50 ページ)</p> <p>(2)臨地実務実習(資料 28 臨地実務実習要綱)</p> |
| <p>(50 ページ)</p> <p>②本学としての取り組み</p> <p>本学としての教育成果をあげるための取り組みとして(略)。</p> | <p>(50 ページ)</p> <p>②専門職短期大学としての取り組み</p> <p>専門職短期大学としての教育成果をあげるための取り組みとして(略)。</p> |
| <p>(51 ページ)</p> <p>実習は、「<u>臨地実務実習要綱 (案)</u>」(資料 28)に基づいて実施する。</p> | <p>(51 ページ)</p> <p>実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」(資料 28)に基づいて実施する。</p> |
| <p>(65 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図(資料 29) 参照</p> | <p>(65 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図(資料 28) 参照</p> |

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次<u>春季</u>には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次<u>秋・冬季</u>に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p> | <p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次<u>夏季</u>には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次<u>冬季</u>に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p> |

9 設置の趣旨等を記載した書類（資料）

誤記や不一致について修正する。

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(目次)</p> <p>資料1 農林大学校卒業生数の推移</p> <p>資料2 静岡県立農林大学校卒業生の状況</p> <p>資料3 農林大学校卒業生の評価</p> <p>資料4 食料・農業・農村基本計画</p> <p>資料5 担い手の現状</p> <p>資料6-1 静岡県経済産業ビジョン2018~2021(農業・農村編)</p> <p>資料6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン2018-2021〇</p> <p>資料7 静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】静岡県森林共生基本計画</p> <p>資料8 専門職大学基本構想策定委員会</p> <p>資料9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について(報告)</p> <p>資料10 高校生の進学意識に関するアンケート調査について(報告)</p> <p>資料11-1 静岡県専門職大学(農林業)基本構想 概要</p> <p>資料11-2 静岡県専門職大学(農林業)基本構想</p> <p>資料12 静岡県総合計画</p> <p>資料13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱</p> <p>資料14 静岡県教育振興基本計画 2018年度~2021年度</p> <p>資料15 静岡県の工業</p> <p>資料16 静岡新産業集積クラスター</p> <p>資料17 静岡県農林業従事者の就業の現状</p> <p>資料18-1 食料・農業・農村の動向</p> <p>資料18-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇</p> <p>資料19 森林及び林業の動向</p> <p>資料20-1 生産科学科 カリキュラム・マップ※</p> <p>資料20-2 農林大学校(養成部・研究部) カリキュラム・マップ〇</p> <p>資料20-3 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ〇</p> <p>資料21 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教員定年規程(案)</p> <p>資料22 履修モデル※</p> <p>資料23 教育課程連携協議会の概要</p> <p>資料24 校舎の利用計画表※</p> <p>資料25 時間割表※</p> <p>資料26 附属施設の概要〇</p> <p>資料27 学術雑誌目録</p> <p>資料28 臨地実務実習要綱(案)〇</p> <p>資料29 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※:補正申請で内容が変更となった資料</p> | <p>(目次)</p> <p>資料1 静岡県立農林大学校卒業生の推移</p> <p>資料2 静岡県立農林大学校卒業生の状況</p> <p>資料3 静岡県立農林大学校卒業生の評価</p> <p>資料4 食料・農業・農村基本計画</p> <p>資料5 静岡県の担い手の現状</p> <p>資料6-1 静岡県経済産業ビジョン2018~2021(農業・農村編)</p> <p>資料6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン2018-2021〇</p> <p>資料7 静岡県経済産業ビジョン2018~2021(森林・林業編)</p> <p>資料8 専門職大学基本構想策定委員会</p> <p>資料9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査</p> <p>資料10 高校生の進学意識に関するアンケート調査</p> <p>資料11 静岡県専門職大学(農林業)基本構想</p> <p>資料12 静岡県総合計画</p> <p>資料13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱</p> <p>資料14 静岡県教育振興基本計画 2018~2021</p> <p>資料15 静岡県の工業</p> <p>資料16 静岡新産業集積クラスター</p> <p>資料17 静岡県農林業従事者の就業の現状</p> <p>資料18-1 食料・農業・農村の動向</p> <p>資料18-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇</p> <p>資料19 森林及び林業の動向</p> <p>資料20-1 生産科学科 カリキュラム・マップ※</p> <p>資料20-2 農林大学校(養成部・研究部) カリキュラム・マップ〇</p> <p>資料20-3 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ〇</p> <p>資料21 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教員定年規程(案)</p> <p>資料22 履修モデル※</p> <p>資料23 教育課程連携協議会の概要</p> <p>資料24 校舎の利用計画表※</p> <p>資料25 時間割表※</p> <p>資料26 附属施設・県有施設の概要〇</p> <p>資料27 学術雑誌目録</p> <p>資料28 臨地実務実習指導要綱〇</p> <p>資料29 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※:補正申請で内容が変更となった資料</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| (資料 26) ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」「圃場実習Ⅰ(野菜)(花き)(茶) (果樹)(畜産)」「 <u>演習林実習Ⅰ</u> 」「 <u>圃場実習Ⅱ (野菜)(花き)(茶)(果樹)</u> 」 ・森林・林業研究センター 【実施科目名】 「 <u>演習林実習Ⅱ</u> 」 ・静岡県有林 【規模】 森林面積 <u>294ha</u> 【実施科目名】 「 <u>演習林実習Ⅱ</u> 」 | (資料 26) ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」「圃場実習Ⅰ(野菜)(花き)(<u>お 茶</u>)(果樹)(畜産)」「演習林実習Ⅰ」 ・森林・林業研究センター 【実施科目名】 「 <u>演習林実習Ⅱ(林業)</u> 」の一部 ・静岡県有林 【規模】 森林面積約 <u>280ha</u> 【実施科目名】 「 <u>演習林実習Ⅱ(林業)</u> 」の一部 |

教員名簿（別記様式第3号（その2の1））

| 新 | | 旧 | |
|-----------|---------------|-----------|-------------|
| 担当授業科目の名称 | 配当年次 | 担当授業科目の名称 | 配当年次 |
| 大型機械実習 | <u>2春・夏・秋</u> | 大型機械実習 | <u>2春・夏</u> |

【別紙 1-1】

| | | | |
|---|--|--|-----------|
| 授業名 環境保全型農業論 Sustainable Agriculture Systems | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義 |
| | | 履修年次 | 2年 冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 片山信也、小澤朗人 |
| 授業時間 | ①火曜日 3・4時限、②木曜日 3, 4時限 | 教室 | 講義室 4 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 農業生産力は、品種改良・化学肥料・農薬の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。しかし、利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。さらにグローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。そこで、本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。 | | |
| 授業目的・目標 | 土壌改良効果と肥料成分供給効果が同時に期待できる家畜堆肥を活用した環境保全型農業の知識・手法を学び、持続型農業について考える。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 環境保全型農業論・序論－沈黙の春～奪われし未来 (小澤朗人) | |
| | 2 | 化学的防除の功罪－薬剤抵抗性・耐性菌問題、誘導多発生、環境汚染 (小澤朗人) | |
| | 3 | I P M (総合的病害虫管理) の理論と取り組み事例 (小澤朗人) | |
| | 4 | 減農薬、有機栽培、自然農法、特別栽培、環境保全型農業それぞれの意味と特徴、取り組み事例 (小澤朗人) | |
| | 5 | 日本国内における有機栽培の実態－県内産茶など取り組み事例 (小澤朗人) | |
| | 6 | 世界の有機栽培事情－欧米でのオーガニック農産物の興隆、その技術 (小澤朗人) | |
| | 7 | 生物多様性とは何か、外来侵入生物が引き起こす諸問題 (小澤朗人) | |
| | 8 | 農地における総合的生物多様性管理 (I B M) と生態系サービス (小澤朗人) | |
| | 9 | 未来の環境保全型農業の実現に向けて－グループディスカッション 1 (小澤朗人) | |
| | 10 | 未来の環境保全型農業の実現に向けて－グループディスカッション 2 (小澤朗人) | |
| | 11 | ふん尿施用の基本的考え方 (片山信也) | |
| | 12 | ふん尿の腐熟度 (片山信也) | |
| | 13 | ふん尿の肥料成分含有率の推定 (片山信也) | |
| | 14 | 牧草・飼料作物への施用法 (片山信也) | |
| 15 | 畑作物・野菜に対する施用法 (片山信也) | | |
| キーワード | 家畜ふん尿処理、家畜ふん尿施用、家畜ふん堆肥、肥料代替率 | | |
| 教科書・参考書 | 家畜ふん尿処理・利用の手引き (畜産環境機構) | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験 (100%) | | |
| 関連科目 | 海外農林業事情、家畜衛生学、農業経営、畜産環境・堆肥利用論 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

【別紙 1-2】

| | | | |
|---|--|---|-----------|
| 授業名 環境保全型農業論 Sustainable Agriculture Systems | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義 |
| | | 履修年次 | 2年 冬期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 片山信也、小澤朗人 |
| 授業時間 | ①火曜日 3・4時限、②木曜日 3, 4時限 | 教室 | 講義室 1 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 農業生産力は、品種改良・化学肥料・農薬の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。しかし、利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。さらにグローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。そこで、本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。 | | |
| 授業目的・目標 | 土壌改良効果と肥料成分供給効果が同時に期待できる家畜堆肥を活用した環境保全型農業の知識・手法を学び、持続型農業について考える。 | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 環境保全型農業論・序論－沈黙の春～奪われし未来 | |
| | 2 | 化学的防除の功罪－薬剤抵抗性・耐性菌問題、誘導多発生、環境汚染 | |
| | 3 | I P M (総合的病害虫管理) の理論と取り組み事例 | |
| | 4 | 減農薬、有機栽培、自然農法、特別栽培、環境保全型農業それぞれの意味と特徴、取り組み事例 | |
| | 5 | 日本国内における有機栽培の実態－県内産茶など取り組み事例 | |
| | 6 | 世界の有機栽培事情－欧米でのオーガニック農産物の興隆、その技術 | |
| | 7 | 生物多様性とは何か、外来侵入生物が引き起こす諸問題 | |
| | 8 | 農地における総合的生物多様性管理 (I B M) と生態系サービス | |
| | 9 | 未来の環境保全型農業の実現に向けて－グループディスカッション 1 | |
| | 10 | 未来の環境保全型農業の実現に向けて－グループディスカッション 2 | |
| | 11 | ふん尿施用の基本的考え方 | |
| | 12 | ふん尿の腐熟度 | |
| | 13 | ふん尿の肥料成分含有率の推定 | |
| | 14 | 牧草・飼料作物への施用法 | |
| 15 | 畑作物・野菜に対する施用法 | | |
| キーワード | 家畜ふん尿処理、家畜ふん尿施用、家畜ふん堆肥、肥料代替率 | | |
| 教科書・参考書 | 家畜ふん尿処理・利用の手引き (畜産環境機構) | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験 (100%) | | |
| 関連科目 | 海外農林業事情、家畜衛生学、農業経営、畜産環境・堆肥利用論 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

【別紙 2-1】

| | | | |
|--|--|------------------------------|-----------|
| 授業名 植物遺伝育種学概論 Introduction to Plant Genetics and Breeding | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義 |
| | | 履修年次 | 1年 秋期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 稲葉善太郎、太田智 |
| 授業時間 | 水曜日 3, 4 時限 | 教室 | 大講義室 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 植物育種は、生産向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。さらに、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | 遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識と、育種の基本的な技術について学ぶ | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 栽培植物の起源と育種の歴史(稲葉善太郎) | |
| | 2 | 日本における品種育成の特徴と遺伝資源の活用(稲葉善太郎) | |
| | 3 | 自殖性作物の育種技術(稲葉善太郎) | |
| | 4 | 他殖生作物の育種技術(稲葉善太郎) | |
| | 5 | 栄養繁殖性作物の育種技術(稲葉善太郎) | |
| | 6 | 突然変異源の植物育種への活用(稲葉善太郎) | |
| | 7 | 知的財産権としての育成品種の活用(稲葉善太郎) | |
| | 8 | 遺伝育種と私たちの暮らし(太田智) | |
| | 9 | 種の概念と種分化(太田智) | |
| | 10 | 細胞分裂と遺伝物質(太田智) | |
| | 11 | 遺伝の仕組み(太田智) | |
| | 12 | 質的形質と量的形質(太田智) | |
| | 13 | 突然変異と染色体の組換え(太田智) | |
| | 14 | 遺伝子工学の基礎(培養と増殖)(太田智) | |
| 15 | 遺伝子工学の基礎(DNA実験手法とマーカー選抜)(太田智) | | |
| キーワード | 自殖性、他殖性、自家不和合、知的財産権、種苗法、遺伝資源 | | |
| 教科書・参考書 | 鵜飼保雄「植物育種学」東京大学出版会、花の品種改良の日本史(柴田道夫編)、品種改良の世界史・作物編(鵜飼保雄編)、品種改良の日本史(鵜飼保雄・大澤良編) | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験(50%)、レポート(50%) | | |
| 関連科目 | 果樹栽培、野菜栽培、花き栽培 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

【別紙 2-2】

| | | | |
|--|--|-----------------------|-----------|
| 授業名 植物遺伝育種学概論 Introduction to Plant Genetics and Breeding | | 単位数 2単位 | 授業の方法 講義 |
| | | 履修年次 | 1年 秋期 |
| 受講対象 | 短期大学部生産科学科 | | |
| 授業コード | 8910234 | 教員名 | 稲葉善太郎、太田智 |
| 授業時間 | 火曜日 3, 4 時限 | 教室 | 大講義室 |
| オフィスアワー | 随時受け付ける、ただし事前にメール連絡 | | |
| メールアドレス | ××@pref.shizuoka.lg.jp | | |
| 授業概要 | 植物育種は、生産向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。さらに、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。 | | |
| 授業目的・目標 | 遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識と、育種の基本的な技術について学ぶ | | |
| 授業計画・内容 | 回数 | 内容 | |
| | 1 | 栽培植物の起源と育種の歴史 | |
| | 2 | 日本における品種育成の特徴と遺伝資源の活用 | |
| | 3 | 自殖性作物の育種技術 | |
| | 4 | 他殖生作物の育種技術 | |
| | 5 | 栄養繁殖性作物の育種技術 | |
| | 6 | 突然変異源の植物育種への活用 | |
| | 7 | 知的財産権としての育成品種の活用 | |
| | 8 | 遺伝育種と私たちの暮らし | |
| | 9 | 種の概念と種分化 | |
| | 10 | 細胞分裂と遺伝物質 | |
| | 11 | 遺伝の仕組み | |
| | 12 | 質的形質と量的形質 | |
| | 13 | 突然変異と染色体の組換え | |
| | 14 | 遺伝子工学の基礎（培養と増殖） | |
| 15 | 遺伝子工学の基礎（DNA実験手法とマーカー選抜） | | |
| キーワード | 自殖性、他殖性、自家不和合、知的財産権、種苗法、遺伝資源 | | |
| 教科書・参考書 | 鶴飼保雄「植物育種学」東京大学出版会、花の品種改良の日本史（柴田道夫編）、品種改良の世界史・作物編（鶴飼保雄編）、品種改良の日本史（鶴飼保雄・大澤良編） | | |
| 評価方法・評価基準 | 試験（50%）、レポート（50%） | | |
| 関連科目 | 果樹栽培、野菜栽培、花き栽培 | | |
| 履修要件 | 特になし | | |
| 備考 | 特になし | | |

【審査意見以外の対応】

生産科学科

＜施設整備スケジュールの変更について＞
 部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。

(対応)

既存の校舎となるA棟の改修工事について、当初の計画では、開学前年度（2019年度）に教員用研究室や臨時図書室の整備、実験室や視聴覚室等の改修、エレベータの新設を行う予定であったが、鉄骨工事に使用する高力ボルトの需給ひっ迫の影響により、鉄骨造であるエレベータの新設工事を予定通り実施することは困難となった。

そのため、施設整備スケジュールを見直し、エレベータ工事の完了時期を開学第1年次（2020年度）に修正する。

なお、開学前年度（2019年度）に予定しているエレベータ新設以外の工事は予定どおり実施するため、授業実施に必要な教室等は確保しており、本学及び校舎を共用する静岡県立農林環境専門職大学、既設の農林大学校の授業は支障なく実施できる。

(新旧対照表) 施設整備スケジュール

| | 2018年度 | | | 2019年度 | | | | | | | | | | | | 2020年度（第1年次） | | | | | | | | | | | | 2021年度（第2年次） | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|---------|----|--------|----|---|---|---|---|---|---|---|------|----|----|-----------------|------|---|---|---|---|---|---|---|----|------|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 新 | A棟 改修工事 <small>(うち、エレベータ工事)</small> | 基本・実施設計 | 工事 | | | | | | | | | | | | 開学 | 第2年次 工事 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | C棟 建築工事 | 基本・実施設計 | | | 工事 | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B棟 (工事なし) | | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | |
| 旧 | A棟 改修工事 | 基本・実施設計 | 工事 | | | | | | | | | | | | 開学 | 第2年次 工事 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B棟 建築工事 | 基本・実施設計 | | | 工事 | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C棟 (工事なし) | | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | 備品搬入 | | | | | | | | | | | | | |